

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会 報告書

第 15 号

巻頭言

2013 年度 第 58 回教職員修養会	1
2013 年度 第 18 回キリスト者教員研修会報告	39
2013 年度 第 39 回サマー・カレッジ報告	49
2013 年度 宗教活動報告	83

東北学院大学

「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。わたしのこれらの言葉を聞くだけで行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家に襲いかかると、倒れて、その倒れ方がひどかった。」イエスがこれらの言葉を語り終わられると、群衆はその教えに非常に驚いた。彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

(マタイ福音書7章24節～29節)

エルサレムやガリラヤ地方では、梅雨や台風など激しい気候変動に悩まされることは余り多くありません。岩地だろうが砂地だろうが、家を建てるに際してあまり注意を払わなくとも快適な生活を過ごせる土地柄です。一生の間、数度しか起きない洪水を想定して土地を選ぶとはなかったことでしょう。

しかし、イエス・キリストは、岩地を選ぶ人を賢い人と評価しています。このたとえ話は、聴衆にとってそれほどびっくりする新鮮な話ではありませんでした。ユダヤ教の指導者たちも同じような話しをしていたからです。旧約聖書を読み込んでいた聴衆たちは、岩の象徴的意味や、岩の上に家を建てるという喩えが信仰生活を意味していることなど、容易に理解することができたのです。

ところで、聖書は「イエスがこれらの言葉を語り終わられると、群衆はその教えに非常に驚いた」と記しています。「彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである」というのです。すなわち聞いた人々が驚いたのは、イエス・キリストの語った話の内容以上に、その話しぶりに驚いたのです。彼らは、イエス・キリストが岩そのものであることをその話し振りから悟ったので驚いたのです。

イエス・キリストの言葉を聞いてそれを行う者とは、イエス・キリストの言葉の上に人生という家を作り上げる者のことです。東北学院も、イエス・キリストの言葉という岩の上に

学び舎を建て上げてきました。それは、風雨にも倒れることのない学び舎です。本報告書が東北学院の土台を学ぶことに貢献するものとして用いられるよう願うものです。

2013 年度
第 58 回教職員修養会報告

第 58 回東北学院大学教職員修養会プログラム

期 日 2013 年 9 月 3 日（水）～9 月 4 日（木） 1 泊 2 日

会 場 宮城蔵王ロイヤルホテル

〒 989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字鬼石原 1-1

TEL 0224-34-3600

主 題 『聖書に聴く』

講演題 『神の言葉として受け入れる』

講 師 山北宣久氏（青山学院院長）

9 月 3 日（火）

9：00 土樋キャンパス正門前 バス出発

10：00 受付

10：30 開会礼拝

大学長挨拶

講師紹介

11：00 講師講演

12：25 オリエンテーション

12：30 昼 食

13：30 各部屋チェックイン

14：00 グループ懇談『講師講演をめぐって』

15：00 休 憩

15：30 全体懇談

「押川方義とはなにものだったのか — 『図録 押川方義とその時代』
刊行に寄せて」

河西晃祐 先生（文学部教授）

18：00 夕 食

9 月 4 日（水）

7：00 朝 食

チェックアウト

9：00 朝 拝

10：00 全体協議・報告会

12：00 閉会礼拝

閉会挨拶

12：30 昼 食

13：30 解散 ホテル前 バス出発

14：30 土樋キャンパス正門 バス到着

第 58 回東北学院学院大学教職員修養会開会礼拝奨励

讃美歌：187、499

聖書：ルカによる福音書第 8 章 4～15 節

説教題：『見ても見えず、聞いても理解できない』

理事長
平河内 健治

只今読んでいただいた箇所には、イエスの譬え話「種を蒔く人」のたとえとイエスがたとえを用いて話す理由、そして「種を蒔く人」のたとえの説明が記されています。この譬え話とその意味についてはよく知られているので、皆さんも一度は耳にしたことがあるかと思います。この開会礼拝では、それぞれがこの譬え話に思いを寄せながら、また、その意味を考えながら、イエスがたとえを用いて話をする理由について中心的に学びを深め、これからの修養会へのスタート地点になれば幸いです。9 節と 10 節をもう一度読んでみたいと思います。

弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねた。イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』ようになるためである。」

ここには、弟子と他の人々のイエスに対する姿勢や立場の違いが述べられています。イエスを信じイエスに従って生活を共にしているが故に、救い主イエスとの真の出会いの機会が与えられ、神の国の秘密を悟ることが許されている弟子たちと、それに対して、イエスの話を聞き癒しの奇蹟を目撃しても、イエスをキリストとする信仰がなく自分勝手な思いや利害と好奇心に縛られるが故に、それらが邪魔になって、イエスがキリストであるという真の姿が見えず、「見ても見えず、聞いても理解できない」ようになっている他の人々との対比であります。譬え話は、後者の「見ても見えず、聞いても悟らない」人々に対して向けられているとイエスは述べます。

10 節にある「ようになるためである」という理由付けには二つの解釈が可能のように思われます。一つは、人々が「見ても見えず、聞いても悟らない」結果になってしまうからという「結果」の意味、つまり、理解を容易にするためにたとえを用いるという解釈と、もう一つは、たとえによって人々が「見ても見えず、聞いても悟らない」ようにさせるという、意図的に理解不能にさせるためという「目的」の意味をもつ解釈であります。

原典のギリシャ語では「ため」は「ヒナ」という目的を示す言葉が使われているとの解説が『新

約聖書略解』にあり、これだと理解を容易にするのとは全く逆になるためイエスの母語のアラム語からの誤訳とするという考えもあるとのことですが、そのような無理をせずとも前者の「結果」の解釈をとればつじつまが合うことを指摘しています。皆さんの新共同訳出版以前に分冊で出版された共同訳の『ルカによる福音』では「彼らは見ても見えず、聞いても理解できないためである」と曖昧性を避けた前者の「結果」の解釈の翻訳にしております。

譬え話は理解を用意する目的で使用されると一般には信じられ、私自身も去る7月8日に榴ヶ岡高等学校の朝の礼拝で昨年同様本年も再びこの箇所がその日の御言葉として与えられる直前までは、たとえば理解を用意するために用いられるという観点からのみ奨励をしてまいりました。

しかし、『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』という文言は二重かぎ括弧で示されているように、引用であります。イエスは旧約聖書の『イザヤ書』第6章9節にあるイザヤが神様から聞いた言葉から引用しております。9節には「主は言われた。／行け、この民に言うがよい／よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな、と。」とあります。次の10節には「この民の心をかたくなにし／耳を鈍く、目を暗くせよ。／目で見ることなく、耳で聞くことなく／その心で理解することなく／悔い改めていやされることのないために。」と神の審判が示されます。イザヤが神の御言葉を語れば語るほど神様自身が民の心をかたくなにするというのです。見ても見ない、聞いても理解しないのは神の御意であるというのです。それでも、最後は、切り倒されたテレビンの木や榎の木が聖なる種子となる切り株を残すように、神の愛による救いの希望があることが預言されます。

この文脈で改めてここを読んでみると、譬え話も救いに導くための一里塚の働きを意図的にさせるためのものと捉えることができます。

ここには譬え話は直ぐには理解できないという前提があります。譬え話の形をとったとしても、容易には理解できません。むしろ、謎のものとして心に迫ってくるものなのです。それだからこそ、弟子たちもまた「このたとえばはどんな意味か」とイエスに尋ねたのだと思います。

旧約聖書の「創世記」にあるババルの塔の話からは、言葉が乱れ、通じなくとも、相手のことがわからなくなっても、それが神様の恵みであり、謙虚に聞くことができるようになり、相手への関心が生まれ、愛の人間関係が作られることを学ぶことができます。私の大好きな短歌に、「わからないけれどたのしいならばいいともおもえないだれあなたは」という俵万智さんの歌があります。「付き合っていて面白い人だからまあいいやと言うわけにはいかない。あなただれなの？」と相手への関心や愛が生まれます。わからないからこそ聞いてみたくなります。イエスの譬え話も私たちを「何を言わんとするのかわからない」と言うパニック状態に時にはさせてしまいますが、譬え話は恵みであり、私たちを無心や無私の謙虚な状態から信

仰への飛躍を促す愛の言葉と言えます。

「見ても見えず、聞いても理解できない」ことは恵みであります。見えず、理解できないからこそ、人間的な思いを一切捨てて、見るように、聞くように努めます。しかし、そこには神の愛の導き、聖霊の働きが必要です。主イエスはルカによる福音書第 11 章の 9 節と 10 節において、次のように述べます。「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。」そして、13 節では、「あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる」と述べます。

聖霊の導きを祈りたいと思います。一言祈ります。

祈り

在天の尊き父なる御神様！健康を守られ、よき場所、よき講師に恵まれ、東北学院大学修養会に出席できる幸せを感謝いたします。

私たちは学校礼拝などを通して、御言葉を学んでおりますが、それらには謎が多く、分からないままに放置してしまったり、無心や無私のところで謙虚に聞けない場合が多くあります。他の学習においても、わからないとすぐにあきらめてしまいがちです。我がまま勝手となり、我欲や貪欲さが先行してしまいがちです。この罪をお許してください。わからないことがすべての学習の出発点であると信じ、物事に取り組む力を与えてください。特に、大学の将来は見通しがたたず、分からないことが余りにも多くあります。見えないからこそ、理解できないからこそ、あなたの御意を謙虚に聞き求め、聖霊の働きを待つ勇氣と力とを与えてください。

試練や困難にある人々を覚えます。あなたが直接臨み、励ましと勇氣と癒しを与えてください。この修養会にあなたご自身が常に共にいてくださり、実り多き修養会になるよう導いてください。

このお祈りをイエス様のお名前を通して、御前にお奉げいたします。

アーメン。

主題講演

「神の言葉として受け入れる」

山北宣久 先生

講師略歴

やま きた のぶ ひさ
山 北 宣 久

出身地 神奈川県

生年月日 1941年4月1日(72歳)

学校法人青山学院・院長

学 歴

- 1963年 立教大学文学部キリスト教学科卒業
1966年 東京神学大学大学院修士課程修了

職 歴

- 1966～1967 日本基督教団品川教会担任教師
1967～1975 日本基督教団三崎町教会担任教師
1975～1977 日本基督教団聖ヶ丘教会担任教師
1977～2011 日本基督教団聖ヶ丘教会主任担任教師
1997～2002 日本基督教団総会副議長
2002～2011 東京神学大学理事、評議員
2002～2010 日本基督教団総会議長
2005～2011 日本キリスト教連合会委員長
2005～2011 日本宗教連盟理事
2007～2010 東京都宗教連盟理事長
2010～2011 日本宗教連盟理事長
2010～現在 学校法人青山学院院長
2010～現在 学校法人青山学院理事
2010～現在 学校法人青山学院評議員
2011～現在 青山学院幼稚園長
2011～現在 日本宗教連盟顧問

著 書

- 『福音のタネ 笑いのタネ』、『おもしろキリスト教 Q&A77』、『それゆけ伝道』、
『愛の祭典ークリスマスアンソロジー』、『きょうは何の日ーキリスト教 365日』、
『福音と笑い これぞ福笑い』、『おもしろキリスト教質問箱 [Q&A77]』(以上教文館)

主題講演「聖書に聴く」
『神の言葉として受け入れる』

青山学院院長
山北 宣久

名乗るほどの者ではありませんが、私は山北宣久です。宣久は音読みするとセンキューです。お招きいただきましてセンキュー。名は体を表わすということです(笑)。

2011年3月11日の東日本大震災で東北学院大学の三つのキャンパスが被害にあわれ、在学生や入学予定者からも犠牲がでたということを伺っております。それ以後、並々ならぬ努力を尽くし、また様々な試練をくぐり抜けて、東北学院がキリスト教学校としての使命を今なお果たし続けていることは、他のキリスト教学校や多くの人々の励ましです。とてもありがたいことであると思っています。青山学院は、毎月11日、日曜日以外でしたら何曜日であってもお昼休みの時間に礼拝堂で祈祷会をもっています。東北学院の名前を挙げて祈り続けていますし、これからもそうし続けることと思います。また、学生同士の交わりも定期戦という形で行われていますし、今年も東北学院大学応援団の代表が箱根駅伝のスタートの時、一緒に「フレーフレー青山」の応援をしてくれました。青山は5年程シード校を勝ち取っていますが、「フレーフレー青山学院」のエールをやって下さるのは本当にありがたいことです。私は、シュネイダー先生のお名前を祖父から聞いて育った者です。シュネイダー先生は55年間も東北学院に御奉仕しましたが、この修養会が今回で58回であるということは、大変な記録だと思います。青山学院の初代院長の本多庸一は、押川方義と一緒にバラ宣教師から洗礼を受けました。おそらく、押川方義と本多庸一は、何回も会って互いに励ましあってきた仲だと思います。押川が受洗したのは、明治5年の3月10日、本多は二ヶ月遅れの5月3日です。押川方義が22歳で本多庸一が24歳の時ですから、本当に多感な時です。やがて、一方は東北学院、他方は青山学院の結成に関わりました。互いに励ましあって困難を切り抜けていったことでしょう。東北学院と青山学院が深く結ばれていることを先人達から深く実感させられる次第です。押川方義は78年、本多庸一は63年の生涯でしたが、今日の私たちの立場は異なっていますが、多くの恩恵を彼らからいただいていることに感謝してやまない次第です。

さて、講演資料に「キリスト教教育が当面する現代的課題」という大きな題を掲げました。

そこから入りたいと思います。まず、第一番目の課題は、価値観を整えるということです。人間の行動原理は欲望、しかも、自分にとっての得や楽です。こういう欲と得と楽が基盤にあり、それが満たされれば少々曲がったことでもやってしまう。良いことであると分かっている、欲や得や楽を満たさないのであればやらないということでしょうか。欲と得と楽は、英語圏でも同じような言葉があります。私が発音すると全部同音に聞こえますが、Leisure、Treasure、Pleasure です。Leisure は、楽しいこと全般を示し、Treasure は、富、宝、財産、金などで、Pleasure は、快楽です。私達は、Joy という言葉を大事にしています。Joyful や Enjoy も同じです。こじつけになりますが Joy とは、Jesus Other Yourself この三つの頭文字が一つとなって Joy です。キリストは自と他と結ばれている、それが Joy だということです。Pleasure は、やめとけば良かったということの意味するものでしょう。欲と得と楽、Leisure Treasure Pleasure は、人間的本能のようなもので、すなわち、エゴイズムです。なかなか拭えないものです。大人は自己中、子供はピカチューと相場は決まっていますが、ピカチューには罪はないのですが、自己中には相当問題があります。この自己中が問題の解決を遠ざけているということです。そのような問題点を克服すべく、キリスト教学校は、価値観を整えるということを鍛えていくべきじゃないかと思えます。

自己中は、人間中心主義と重なります。第二番目の課題です。東日本大震災以降「絆」という言葉がキーワードになって日本を覆っています。絆は、糸へんに半分と書きますから、お互いに結ばれていくことを予想させます。もう一つの半分があります。それは糸へんではなく人へんに半分と書く「伴」の言葉です。絆は同時に伴う、つまりその人と一緒に歩き続けることだと思います。歩き続けることは継続性を意味しますからそういう意味では絆というのは一方的な思い込み、またそれが押しつけではなく、「伴」の思いが必要ではないかと思えます。

今年生誕 90 周年を迎えた遠藤周作は、イエス・キリストを紹介して人生の同伴者と表現しました。真の人生の同伴者はイエス・キリストであると言いました。絆は、伴うことであり、人間中心主義のエゴイズムを超えさせるものです。遠藤は、Doing よりも Being だと言います。私たちは、何をするかとか、何をしたかという業績によって人の価値を判断しますが、一番大きな価値は、Being です。イエス・キリストは、Doing も大事だけども Being である、What To Be それから What To Do がついてくることを強調したと考えます。そういう意味で、人格というものが大きな課題なのです。私は、学生たちに VSOP という話をします。ブランデーの VSOP を勧めるのではないですが、芳醇な香りが漂うということは、仕込みがしっかりしてないといけないということです。学生時代は、広い視野に立っているいろいろな人との出会う、そのような仕込みが、いつしか人生の芳醇な香りに変わると確信しています。V はバイタリティー力強さ、S はスペシャリティー、O はオリジナリティー独創性、そして、言い

たいのはPですね。VSOPのPは、パーソナリティーです。同じことを言ってもやっても、Aさんが言うのと本当にそう思うのだけでも、Bさんが言うのと全然わからないということがあります。それはパーソナリティーの違いだと思います。ですから、人柄と訳してもいいと思います。そういうものを醸し出しているのが、クリスチャン・スクールです。余りVSOPと言うと、ベリー・スペシャル・ワンパターンということで、控えなければいけませんが、そういうこともあると思います。旧約聖書に哀歌という書があります。この書は、エレミヤの哀歌、国敗れて山河なしという状況の時に書かれたものです。哀歌2章19節に次のような言葉があります。

立て、宵の初めに。夜を徹して嘆きの声をあげるために。
主の御前に出て水のようにあなたの心を注ぎ出せ。
両手を上げて命乞いをせよ、あなたの幼子らのために。
彼らはどの街角でも飢えに衰えてゆく。

これは、どうしようもない戦乱と恐怖の中で記された言葉です。戦い敗れて物もなく心も病む、そういう人たちに両手を上げて命乞いをせよ、主の御前に出て水のようにあなたの心を注ぎ出せというのです。そのような心をもって祈りとすることは、ありえるのか、ありえないのかということですが、それがキリスト教教育の大きな境目ではないかと思えます。すなわち、人間中心主義との戦いなのです。

「キリスト教教育が当面する現代的課題」の第三番目の課題は、死を忘れた文化との対峙です。私たちは、死を忘れたところで現代を楽しんでいます。本能的にそうしてしまいます。これは良い悪いではなく、そうなるということです。台風が来るたびに彼の名前を思い出すのですが、私たちの信仰の先輩であるブレーズ・パスカルです。台風が来ると986ヘクトパスカルと彼の名前がでできますから、すごいなと思えます。このパスカルは、最後の死を目隠しし、そこまで全力疾走してくる、と言ったそうです。最後は死で終わることが分かっているのですが、それを目隠しして見ない、当座の楽しみの気晴らしによって全力疾走しているというのです。それは人間の営みというか、人間の自己防衛的本能ということで認めざるをえないのですが、押川方義や本多庸一と一緒にやはりバラから洗礼を受けた人物の植村正久は、「常に死を想って魂を鍛える」と語っています。いつかは死にゆく者だということを忘れないというのです。人間は、太陽と死を直視することは出来ません。見るならば目が潰れます。芥川龍之介が言うように、死をみたら金縛りにあってもう何も出来なくなる、本当にそうだと思います。しかし、死を見ないと終わりが見えてこないのです。イエス・キリストを通して死を見る事ができる、そして、死は最期ではなく、人生の終着駅である死が永遠の

命の始発駅に乗り換えるターミナルだということです。ですから、末期がん患者のためのターミナルケアの言葉が暗示しているように、ターミナルにイエス・キリストは立っていて下さるのです。終わりがあるゆえにむしろ現在を生かすという、そのような日の数え方、旧約聖書 1 ページの最初の天地創造の記事には「夕となり朝となり、これが第 1 日目である」と記されています。朝となり昼となりそして闇となって夜になるのではないのです。夕となり朝となるということです。朝という字は、十と書いて日を書く、また十日と書いて月と書きます。つまり、十日十ヶ月ここで新しい命が与えられる朝を迎えるということです。裏をとってない話しなのですが、なるほどと思いました。そのようにして朝を迎えるということはすごいことだと思います。

私は、生まれて初めて 5 月に入院しました。その時に気がついたのですが、病院の部屋には 4 号室がないのです。私の病室は 413 でしたが、414 もないし 514 もないのです。エレベーターの表記には、4 階がないのです。3 階の次は 5 階になっており私はびっくりしました。人が 4 を嫌がるからでしょう。おそらく、音声的に死と関連されるからでしょう。駐車場も、4 番や 14 番や 24 番はありませんでした。読売新聞に子供の詩が掲載されておりました。「四という数字」という詩が忘れられないのです。

「四という数字」

四という数字をみんな嫌う。四は死につながる。

だけど僕は違う。

試練のし、幸せのし、辛抱のしだと思っています。

僕は四年四組四番です。

こういう詩でした、四年四組四番、四のとどめですからね。驚きました。四という数字を大人がアンラッキー・ナンバーとしたのですが、その詩を選んだ先生は「う～ん、すごい詩だね、4 は死につながるからね」と評していました。それもすごいことです。

「キリスト教教育が当面する現代的課題」について、以上三つの課題を挙げましたが、これらの課題は礼拝の課題ともなっています。礼拝において神の言葉を聴き、霊性の枯渇からくる問題性を超えて、敬虔を保持する。そして「人格」を再発見するのです。東北学院 127 年の歩みの中で礼拝を守り続けてきた、困難な中でも礼拝を中心とし、礼拝を決してやめない、礼拝をやめるという誘惑と戦ってきたことは、学院の底力だと思います。礼拝をさせないという力は、内にも外にもたくさんあります。しかし、そういう中であって礼拝を守る、礼拝には神の言葉があるからです。人間は、二つの軸を持っています。水平軸と垂直軸です。神と人間の関係は、バーティカル・垂直軸であり、人と人との関係は、人間社会のホリゾンタ

ル・水平軸です。垂直と水平ですから、そこに十字架の形ができることを強調したいと思います。やはり、水平な関係と垂直な関係を牽引するのは礼拝なのです。

ここまでこんなに時間とってしまいました。講演のスピードを上げたいと思います。講演の主題が「聖書に聴く」ですが、この聴くという表記が大変印象深く覚えました。聴くという言葉が聖書辞典で調べたのですが、実は、「聴く」という表記は、聖書には一箇所しか記されていないのです。マルコによる福音書1章27節「人々は皆驚いて、論じ合った。これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く」の箇所です。意外なことでした。マルコによる福音書7章31節～37節に「聞く」が記されています。耳が不自由でかつ口がきけない人が登場しています。主イエスはその人に「エッフアタ」(34節)と言われました。イエス・キリストが「エッフアタ」と言われると、耳が開き舌のもつれが解けたというのです。エッフアタというのは、印象的ですが、この表現は原語で記載されています。ヘブライ語です。その発音が響いたのでしょう。主イエスは指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れられた、そして「エッフアタ」と言ったのです。まず耳が開いたということは、象徴的だと思います。この耳と言うのは、ギリシャ語でエコーアイです。英語で言えば hear というよりも listen になると思います。聴くは、耳に十四の心と書きます。こじつけですが、聴くという字は耳と書いて十四の心と書きます。そこで考えてみて下さい。一心に聴く、本心で聴く、中心で聴く、関心、半信、感心、細心、良心、用心、同心、熱心、無心、初心、意心…とにかく集中です。聖書に聴くということは、あらゆる心を動員して聴くことが求められるのではないかと思います。聖書の聖という言葉は、耳に呈すると書きます。耳を呈するのが聴くということです。ですから、私たちにとって最大の敵は、アモスが言っています…「それはパンに飢えることでもなく、水に飢えることでもなく、主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渇きだ」(アモス書8:11)。従って、私たちの最大の奉仕は、主の言葉を聞くことなのです。

私たちは、そういう意味において聖書から心して聞くわけですが、聖書は、神の言葉である (sein) と共に神の言葉になる (werden) というものです。神の言葉になるということはどういうことかということ、聖霊の目に見えない神の愛の力、聖霊によって神の言葉になるのです。宣教だって人間の言葉です。しかし、宣教によって神の言葉になるのです。それは、すなわち、祈りによって、聖霊の導きによってです。目に見えない祈りと共に「あ～そうだったのだ、これは神の言葉だったのだ」と悟るのです。ですから祈りと共に聖書を開く、祈りをもって聖書を閉じます。そういう意味において、聖書を聴くということは、聖書の言葉が神の言葉になるということであり、神の言葉を私たちに与えて下さいという祈りと共に私たちは聖書を開くのです。そして、祈りと共に聖書を閉じるということです。よく言われることですが、聖書のどこを読んだら良いのですか、聖書はこんなに厚いのでどこを読んだら良いか分

からないのです。聖書は全部神の言葉なのだからパッと開いて見たところ、目に入ったところはみな神の言葉なのです。先生に言われた通りパッと開いたら、「彼は首を吊って死んでしまった」とありました、また、パッと見たら「あなたも同じようにしなさい」と書いてあったと言うのです。それは確かにユダの最期はそうなっていますが、これは笑い話です。神の言葉であるということは、祈りと共に神の言葉になるということです、このような笑い話のできたのだと思います。来週から教文館で水野源三展が開催されます。来年、彼が亡くなって30年になるのを記念して写真集が出版されると宣伝していました。水野源三の47年の生涯は、この詩に書いてあるようなものでした。「脳性麻痺のために全て奪われたが、神様が目と耳だけを守って下さった。み言葉を読むために、み言葉を聞くために、み言葉によって救うために。」ここにも、耳を呈する書、聖書が記されてあります。

さて、テサロニケにおいてパウロは、さんざんユダヤ人に迫害され、山の中でいじめの対象になりました。そのような中でテサロニケの人たちは、本当に神の言葉を聞いたのです。パウロは感慨をこめて「あなた方自身が知っているように、わたしたちがそちらへ行ったことは無駄ではありませんでした」（テサロニケ第一2:1）と記しています。その後の13節で「このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです」と言っています。神の言葉を受け入れ、神の言葉が働いていると言っています。神の言葉は、そのようなリアリティを持つものなのです。「働いている」は、energeiaがその原語です。これは、energy エネルギーの語源でもあり、神の言葉は非常に精力的で強力なenergeiaものであることを示しています。預言者イザヤは、イザヤ書55章で次のように言っています。「そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」精神的な神の言葉が現に働いているリアリティを実感します。エレミヤ書23章29節に「このように、わたしの言葉は火に似ていないか。岩を打ち砕く槌(ハンマー)のようではないか、と主は言われる」と記されています。困難に遭遇したとき、もうだめだという絶望した中において、本当にそのように実感していたと思います。東北学院の先達も皆そのような経験をしてきたのだと思います。ホーイにしてもシュネイダーにしてもそうですが、要するに神の言葉、神の福音、それを貫くことが青山学院と東北学院の基盤となっています。

さて、キリスト教の中心はと言いますと、こんなに厚い聖書の中にいろいろなことが書いてありますので、これがキリスト教だ、これが福音だと言う事は一言では言えませんが、私は次のように答えています。それはインマヌエル・アーメンという言葉です。インマヌエルという言葉は「神はわれらと共にいます。」アーメンは「本当にその通りだ」の意味です。インマ

ヌエル・アーメン「神はわれらと共にいます」ということは本当にその通りだということです。アーメンというと、私も、アーメンという言葉で育ちました。しかし、一步外に出ると、アーメン、ソーメン、冷やソーメン、カンフーメンとからかわれるのです。嫌だなと思いましたが、子供ながらに、讃美歌を歌う時、アーメンと言えば讃美歌の終わりと思っていました。お風呂に入っている時も「アーメン、アーメン、アーメン」と私が言うと、風呂まだ終わりではないので「そうじゃないでしょ、アーメンっていうのは本当にその通りですって意味でしょ」と言われました。あとで笑われました。インマヌエル・アーメンは、現代のキリスト教の信仰であるということになります。押川方義の言葉を引用したいと思います。「私たちには絶対的命がある。しからば如何にしたら絶対的命に生きられるのか。信仰の世界において絶対的命がある。宗教とはつまりこの相対的命から絶対的命へと切り替わる道である」と言っています。方義は、イエス・キリストの愛を、馬屋の草取り、便所や部屋の掃除をしながら学んだとも言っています。馬小屋から十字架に至るまでのイエスキリストを便所掃除から馬屋の草取りをしながら、身をもって体験したのです。インマヌエル・アーメン「神はわれらと共にいます」という絶対的命を実感していたのだと思います。ロビンソン・クルーソーの本の中で、デュポーは、無人島で聖書を開くことになります。そこで読んだのがヨシュア記でした。「一生の間、あなたの行く手に立ちはだかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。」この言葉をロビンソン・クルーソーは今更のごとく見出すのです。ヨシュア記の言葉によって、彼は、改めて「あなたは一人ではない、私はあなたと共にいる」インマヌエルを実感するのです。そして、人間性を取り戻して行くのです。クルーソーは、ヨシュア記の言葉をもって、神が共にいる、見放すこともなく見捨てることもないのだ、と実感します。人ごみの中で自分を見失っていたロビンソン・クルーソーが、無人島でみ言葉によって自分を再発見するのです。

何のために聖書が書かれたのかというその理由について記された聖書箇所を講演資料に列記しましたので、あとで見ておいてください。聖書は、a bookではなくThe Bookです。不定冠詞であるならば、本の中の一冊の本ですが、定冠詞ならば特定の本、すなわち、Bibleです。讃美歌 189 番は、日本の古い今様という平安時代の旋律に基づいたものです。その歌詞は、「世のなかに ふみちようふみはおおけれど、まことのふみは みふみなりけり」です。世の中に沢山の本はあるが、本当の書は聖書であるということです。こども a bookではなくThe Bookです。とうとう時間になりました。ご清聴ありがとうございます。祈りをもって講演を閉じたいと思います。

全体懇談

「押川方義とは“なにもの”だったか
—『図録 押川方義とその時代』刊行によせて—」

文学部教授 河西晃祐 先生

「押川方義とは“なにもの”だったのか
—『図録 押川方義とその時代』刊行によせて—

文学部歴史学科教授 河西晃祐

【はじめに】

押川方義とは“なにもの”だったのでしょうか？

「先生を知るほどの人は、皆な非常な希望と期待を先生にかけ、何等か偉大なる事業が先生によつて成されねばならぬやうに考へて居た。而も先生は東北学院創立以外は、殆ど一事を成すことなくして世を逝つたのである。それ故に三宅雪嶺翁は、先生を出来損ひの傑作となし、造物主が世に稀なる偉人を造るつもりで、何処かに手抜かりがあつたのだらうと言つた。」

これは、その弟子であつた大川周明が残した押川評です。大川は極東軍事裁判でA級戦犯と認定された人物ですが、同時に宗教家としてキリスト教、仏教、儒教、イスラーム教にも強い関心を持っていました。そのような宗教的な関心が結び付けたのでしょう。大川と押川とは1910年代のある時期に師弟関係を結んでいました。

このように存命時から毀誉褒貶がよせられ、死後も評価が定まらない学祖・押川方義の活動とはどのようなものだったのか、今回の報告では「押川家文書」によりながら歴史学的見地からトピック毎にその活動をみていきます。

【押川家文書の概要】

まず報告に先立ちまして、今回発刊した図録『押川方義とその時代』のもとになった押川家文書について簡単に紹介します。同資料が本学に寄贈された経緯は以下の通りです（詳細は図録10～15頁をご覧ください）。

2002年12月 押川昌一氏(押川方義の孫)の逝去

2003年1月 押川良子氏より「東北学院関係の資料は5月の創立記念日までに寄贈した

い」というご提案を頂く

2003年12月 押川良子氏より「史料一切を東北学院に寄託したい」というご提案を頂く

2004年11月 段ボール約70箱分の寄贈史料

押川良子氏より「関係資料の運搬及び保存・破棄等の一切の処理について、日野氏に一任する旨の確約も得た」

河西ゼミでは2008年4月から資料整理を開始し、現在もその作業を続けています。史料の中身は大別して1:押川方義、方存(春浪)、清、常子関係書簡・文書等約2000点、2:押川方義所蔵絵画、書等、3:押川昌一氏関連史料(含脚本類、葉書多数、日用品多数)といったものですが、総数は数万点にのぼります。今後の資料整理によって東アジア全域に及んだ「帝国」日本の対外進出と、キリスト教伝道との関わりを明らかにできるといえるでしょう。

【トピック1 押川のキリスト教入信のタイミングの意味とは？】

ここからは、具体的な押川方義の生涯についてみていきたいと思います。押川の幼名は橋本熊三郎といい、1850(嘉永2)年に伊予松山に生まれ、後に同じ藩士の家である押川家の養子となりました。この間の経緯については、歴史学科の菊池慶子教授によってはじめて詳細が明らかとなりました。図録18～23頁に詳しく掲載されております。それでは、この時代はどのような時代だったのでしょうか？

よく知られているのは、方義誕生の三年後の1853年にペリーが来航したことでしょう。一度帰国したペリーは翌1854年に再来日し、日米和親条約締結を締結させます。このことは松山藩の藩士であった橋本家をまきこんでいきました。押川方義の実兄であり、後に東北学院で学び、宮城女学校の校主ともなった橋本経光はこの時、松山藩の洋式軍隊隊長に就任しています。

その後の1859年からは、米国聖公会ジョン・リギンズ(John Liggins)、チャニング・ウィリアムズ(Channing Moore Williams)、ジェームズ・カーティス・ヘップバーン(James Curtis Hepburn)、アメリカのオランダ改革派教会 サミュエル・ブラウン(Samuel Robbins Brown)とガイド・フルベッキ(Guido Herman Fridolin Verbeck)らの来日が始まります。そして1861年にはアメリカ・オランダ改革派教会の牧師ジェームズ・バラ(James Ballagh)が来日しました。後に押川はこのバラから洗礼を受けることとなりますが、ちょうどこの年、橋本熊三郎は押川家の養子となっています。

方義がバラと出会うきっかけは、1869(明治2)年の方義の横浜留学です。方義は藩派遣の江戸・横浜留学生として上京しました。なお同時期の松山藩からの留学生としては、司馬

遼太郎『坂の上の雲』で有名な秋山好古・真之兄弟や、俳人正岡子規がいました。東京には松山藩士の集まりであった「常磐会」があり、押川と彼らが面識があった可能性もありますが、今後の研究課題です。

1871年には廃藩置県が行われ、この時点で藩費が打ち切られた可能性が高いでしょう。しかし、それは一方で信仰面での規制がなくなったことも意味していたはずです。実際に1872年には押川は、J.バラから洗礼を受け、後に青山学院第二代院長となる本多庸一や、明治学院創設メンバー井深梶之助、植村正久らとともに横浜で「日本基督公会」を設立しました。これは1873年のキリスト教解禁の前年の出来事です。

方義はその後、新潟伝道時代を経て仙台に移り、1881年には国分町1丁目に仙台教会を設立し、ついで石巻・岩沼・古川教会を設立します。そして日本基督一致協会に加入し、ドイツ改革派教会の宣教師であったW.E. ホーイの支援を受けて1886年5月に仙台神学校、同年9月に宮城女学校を設立するのです。この時のライバルが、大河ドラマにも登場した新島譲です。同時期に同様の計画を持っていることを知った新島と押川は直接連絡を取り合いながら、一時は共同で男子普通学校を設立しよう、などと動いたのですが、結局は地元経済界などの支援を受けた新島が宮城英学校(後の東華学校)を開学し、押川は神学校を設立するというように、袂を分かつ結果となりました。

しかしその後に東華学校は立ち行かなくなって、新島も死去します。そのような状況の変化もあったのでしょうか、押川が1891年に仙台神学校を東北学院と改称することは、皆さまのよく知っているとおりで。

それでは押川が仙台に伝道の拠点を置いた理由とは何だったのでしょうか。これも諸説があるのですが、山本秀煌『日本基督教会史』(日本基督教会事務所、1929年)では、ロシア帝国の勢力伸長を恐れ、すでにロシア正教が進出していた東北を布教の地とすることで、ロシア勢力の南下を食い止めようとしたとされています。押川のその後の人生をみると、頷くことのできる見解です。

【トピック2 押川は東北学院設立直後から海外で何をしていたのか？】

このように仙台に教育の拠点を設けることができた押川でしたが、彼はそこで満足いたしません。1894年には本多や巖本善治らとともに「大日本海外教育会」を設立し、大隈重信や渋沢栄一らと教育事業に乗り出します。1896年には今度は北海道同志教育会を設立し、北海道遠軽に「学田」を開くこととなります(これはうまくいきませんでした。現在でも遠軽町では押川を開拓の祖と位置付けています)。また同じ1896年には渋沢栄一、大隈重信らの援助を受けて京城学堂をソウルに開校しました。このように、押川は仙台神学校を東北学院と

改称した直後から、北海道と朝鮮半島での学校経営に乗り出しています。ではその理由とは何だったのでしょうか？

京城学堂の活動とは「皆暗に日本の威信を盾として、将来の好運を祈り居る」ような学生を集め、日本軍守備隊の便宜を得て、現役陸軍少尉らの指導の下に日本式兵式体操をとり入れるカリキュラムなどを行うものでした。ここで押川は何を狙っていたのでしょうか。1894-95年とは、日清戦争後に三国干渉(フランス、ドイツ、ロシア)を招く一方で、朝鮮国内では日清戦争に勝った日本をモデルとして、教育改革も実行された時期でもありました。このようなことを考えると、押川の目的とは、三国干渉にも加わった欧米各国から疑われずに教育改革を進め、日本式の教育を導入することで、親日派の育成を図ることだった可能性があります。

そして押川の活動はさらに中国大陸にまで伸びていきます。1900年に清国で義和団の乱が発生すると、日本軍がその鎮圧にあたりました。押川は表向きは日本軍の「慰問」を目的として1901年4月まで渡清しましたが、実際には大日本海外教育会の学校施設として、「清国皇族学校」や「清国子女教育」を設立することを目的として活動しました(『図録』56、57頁参照)。当時、日清戦争に敗れた清国を舞台に、列強がその経済権益を争い、アメリカからの布教団体や、各国の支援を受けた各種学校が盛んに進出をねらっていました。実際にホーイも教団の意を受けて、1899年に清国にわたっていきます。

押川の狙いとは、対象をいずれは清朝政府の実権を握る可能性の高い「清国皇族」にまで広げることで、先の京城学堂以上に確実な「親日勢力」を扶植することにあつたといえるでしょう。

ただし、問題となるのはこのように仙台を離れて北海道、朝鮮半島から清国へと教育事業の拡大に走った押川は、同時期の仙台での職務を果たしていなかったことでした。このような活動は東北学院院長としての責務との兼ね合いがつくはずもなく、1901年5月に押川は学院を追われ、シュネーダーが第二代学院長に就任しました。

【トピック3 なぜ押川は「朝鮮利権」問題を引き起こしたのか？】

そしてこの後、押川は自らの宗教的名声を失ってしまうある事件にかかわっていきます。この発端は、1905年3月に李逸植という韓国人が逮捕されたことでした(この件については『図録』の60頁以降に記載しています)。ところが、この李は大韓帝国皇帝高宗の「勅書」を所持していました。そしてその内容は、押川らが高宗から韓国国内における塩・煙草の専売、田野の開墾収税などといった権益の譲渡を認められたというものだったのです。しかもこの1905年3月というタイミングは、日露戦争の最中のことでした。

事件は『万朝報』のスクープとして、広く世間の関心を集めることになり、売国奴押川の利権漁りとみなされていくこととなります。そして結果的には小村寿太郎が日本外務省が動き、契約は破棄されましたが、実はその背後にはもっと深い闇が広がっていた可能性があるのです。事件を探っていた警視庁の内偵によれば、この押川の行動の背後には大隈重信、伊藤博文、西園寺公望、原敬、犬養毅らの関与が存在し、特に伊藤博文は「賛成」していた事実が存在していたというのです(『図録』63頁)。

いまだに謎の多いこの事件ですが、押川の狙い、伊藤の賛同の理由とは何だったのでしょうか？ここで私が強調しておきたいのは、「結果を知ってしまっている現在の我々の視野は狭い」ということです。結末を知ってしまっている我々には、当事者らが抱いていた「実際には起こらなかった様々な可能性」が、なかなか見えてきません。歴史学とは年表を作成するのではなく、このように年表からは消えてしまうような様々な可能性を史料から復元する学問です。

押川が想定していたのは、日露戦争に日本が負ける、あるいは引き分けに終わる可能性だったのではなかったのでしょうか。もしそうなった場合でも、押川が獲得した契約は残り、その後の朝鮮半島において日本の利益を保持できる、これが押川の狙いだったと考えています。そして実は押川の行動を支援した伊藤博文こそ、日本が勝つことはできないと考え、開戦前から日露協商論という形で、ロシアとの妥協を図っていた人物にほかなりませんでした。その意味では押川は伊藤とも認識を共通していたといえます。

しかし、世間は押川の意向を、そのようには理解しませんでした。結果的に日本が勝利したことも相まって、「(押川)先生の一行は韓国皇帝を籠絡し、其大利権を得たかの如く伝えられてゐると共に、其目的が単に利権屋の利権漁りと同様に曲解されてゐる」(大塚栄三『聖雄押川方義』98頁)ことになったのです。

それではもう一方の韓国皇帝高宗の思惑とは何だったのでしょうか。近年の研究では、高宗は日露開戦前から、一国による支配を免れるために、日本・ロシア以外にもアメリカ・イギリス・ドイツに利権や土地を譲渡して、朝鮮半島に「バランス・オブ・パワー」といえるような状況を出現させることを試みていたと指摘されています。この点を考えれば、押川はその国家戦略に取り込まれていた可能性が高いといえましょう。すなわち「朝鮮利権問題」とは、さまざまな思惑が絡み合って浮上してきた、年表には残らなかった「大事件」だったわけです。

1909年、かつて東北学院で教鞭を執り、教育と伝道に意を注いでいた時代の押川をよく知っていた島崎藤村は、当時の押川について次のように述べています。

「目的とする処と自分の今の仕事を分けて考へる人は、例へば押川方義先生や巖本善治先生などの今日の生活は其れであらう。詰り今やってみる事(金を儲けるとか事業を企てるとか)は真の目的でなくつて、夫れを手段として目的を果たそうと云ふ様な

考へて居られるらしい。(中略)押川巖本の二先生の如き『我が目的は他にある』と思ひながら今日の仕事を軽く見て其の日々を送られてみると云ふ風に見受けられる。この事を考へて見ると非常に悲慘の感じを起させる。私などはずっと以前から二先生をよく知って居るので今日になって殊にこの感が深い。」「(文学断片)『基督教世界』明治42年7月15日号／藤一也『押川方義』199頁)

このように、この事件を境に宗教家としての押川の名声は地に落ちることになってしまいました。

【トピック4 押川は「満蒙独立運動」にどのように関与したのか？】

そのような押川が、今度は日本の危機を救う役割を果たすこととなります。それが満蒙独立運動への関わりです。満蒙独立運動とは二回に分けて行われたものです。まず1912年の第一次満蒙独立運動においては、川島浪速(川島芳子の養父)、肅親王(川島芳子実父)らが、満州および蒙古を独立させる計画を立案しましたが、これは日本政府の手によって中止されます。

しかしその後、中国において袁世凱が皇帝登極を狙うようになると、第二次大隈内閣は1916年3月に袁世凱排除の方針を立て、民間有志の独立運動を黙認する方針を閣議決定しました。そして川島らは陸軍の協力も得て第二次満蒙独立運動を開始しますが、今度は袁世凱が死去します。そうすると大隈内閣は、手のひらを返すようにして独立運動の中止を決定しました。ここで押川が登場するのです。

一度は認めた計画取り下げのためには、陸軍に加えて川島ら大陸浪人らの説得工作が不可欠でした。しかし計画は既に進行中であり、陸軍・政府からの資金をあてにした有象無象の大陸浪人らが集結中です。そこで大隈首相の意を受けた押川が渡満し、彼らとも話をつけて独立運動の取り下げを成功させたのです。田中義一といった陸軍軍人や川島浪速・肅親王と交友があり、さらには大隈とも入魂の間柄であった押川の手腕が発揮されたわけです。つまり押川は、大隈内閣の危機を救い、国際的な非難をさけることができたという点では、確かにこの時日本を救ったのです。

その後、押川はその見返りというわけではないのですが、大隈の支援を受けて衆議院議員に当選、最期は北樺太海底油田の開発に関与しますが、1928年に脳溢血で死去します。

【押川とは“なにもの”だったのか？】

さて、このように駆け足で押川の生涯を見てきました。それでは最後に押川とは何ものであったのか、それを歴史学的見地から考えていきたいと思います。

①：国粹主義者(ナショナリスト)=キリスト者という理解を体現した存在。

押川の従来の見方は、キリスト者からナショナリストへ転向した、というものでした。しかしながら、このようにキリスト者とナショナリストを対峙させる見方は、実は正確ではありません。たとえば明治天皇崩御にさいする内村鑑三の“嘆き”を考えてみましょう。内村鑑三不敬事件で世に知られる内村ですが、明治天皇が崩御した際には、彼は声をあげて号泣しています。戦後の我々が、日本を戦争に導いたファナティックなナショナリズムを批判することは当然です。しかしながら、学問的には同時に“ナショナリズム”が、超歴史的価値観ではないことを認識しなくてはなりません。つまりナショナリズムには時代ごとの社会的意義があり、明治期からずっと昭和戦中期のようなナショナリズムが芽生えていたわけではないということです。キリスト教解禁前に洗礼を受けた押川自身の発想もまた、西洋文明発展の基礎たるキリスト教を学ぶことによって、西洋列強に負けないような強国「日本」をつくりたい、というナショナリスト的な発想だったといえます。

②：生涯を貫いた「自給独立」への強い意志。

この点はなぜ押川が事業にかかわろうとし、「利権」といったものに引き寄せられていったのか、ということに関わるものです。これもまた非キリスト者的な発想に見えるのですが、実際にはこの側面も押川のキリスト者としての生き方から生まれたものです。押川が日本人として最初にプロテスタント信者となった時に横浜で目にしたのは、残念ながら欧米各国・各教団からの宣教師らの確執、教義や教団運営を巡る対立でした。押川はそのようなセクショナリズムにとらわれずに、教団・教派の壁を越えた「日本人のための教会」を設立したいと願っていきます。押川は初期には日本基督一致教会からの自立をはかり、仙台に来てからの古川・岩沼教会の設立運営に当たっても、教会の運営をできるだけ教団からの援助を受けずにおこなう「自給主義」をとっています。また東北学院の「労働会」のアイディアも同じように、学生に「自給独立」への強い意志を持つことを願った姿であったといえるでしょう。

そして教育事業家として朝鮮半島、清国に展開したいと考えていた押川は、学院長以外の収入による「自立」への意欲をもち、これが事業への強い意志につながったといえるのです(無論、これが多少行き過ぎて、「利権」という一攫千金狙いの行動につながった点は否め

ません)。

③：「結果」ではなく「可能性」の人。

このような押川は、結論としては結果ではなく可能性の人であったと評価できるのではないのでしょうか。京城学堂の経営は、決して押川が韓国併合の意思を持って行なったことではありません。近年の研究では韓国統監となった伊藤博文ですら、将来的な自治から併合までの幅広い可能性を考えながら、さまざまな政策を行っていたことが明らかとなってきています。京城学堂の経営を開始した1896年という時点で、押川が朝鮮半島の植民地化を願っていたことは考えにくいことです。また朝鮮利権事件では、直接面識のあった高宗の能力を高く評価していることから、同時代の日本人よりもむしろ好意的に朝鮮半島の人々を見ていたともいえます。いずれにしても、結果から見てしまっているのは、押川の意図は評価されていかないでしょう。

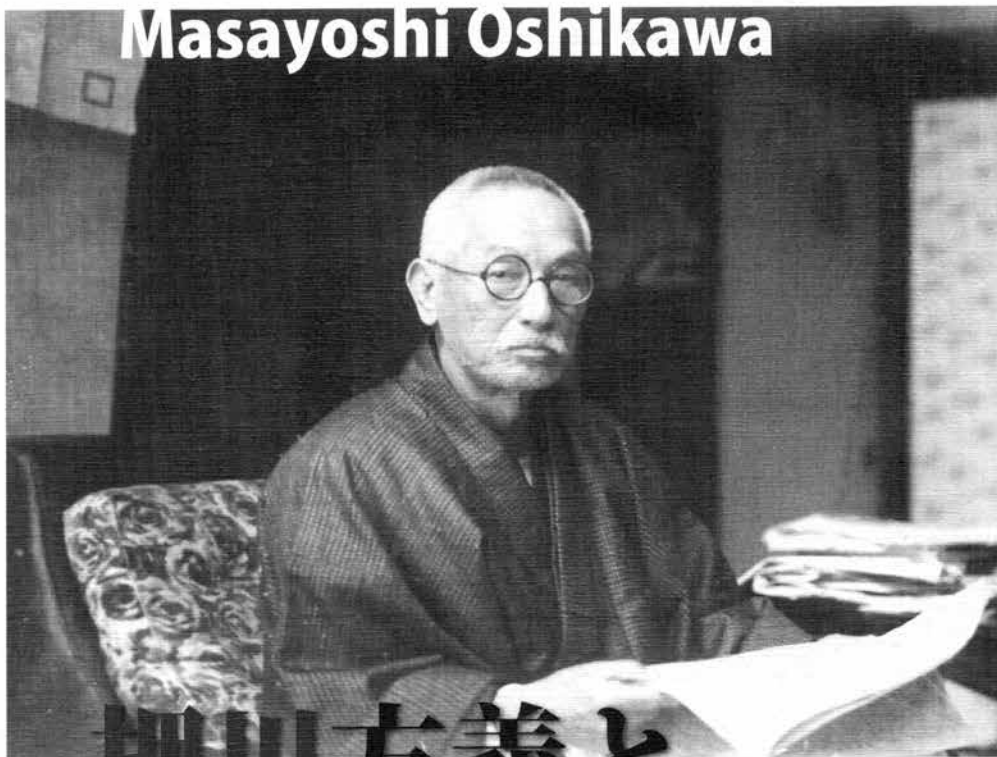
④：同時代の誰よりも「女性」の可能性を信じていた押川。

最後にこのような可能性の人、ということとも関わる押川の知られざる一面をご紹介します。今回の図録を作成するにあたって見えてきたのは、いわゆる男尊女卑が当たり前であった時代、女性には一切の選挙権を与えず、政治集会にも出ることを禁じていたような時代にあって、「国事」を妻・常子にこと細かに報告する方義の姿です(『図録』57頁他)。ここには明らかに、「国事は男の仕事」という常識にとらわれない押川の一面が表れています。

たとえば『図録』50～51頁には、「大日本海外教育会」の賛成員・会員らの名前、新渡戸稲造や板垣退助、徳富猪一郎といった錚々たる顔ぶれが挙がっていますが、実はここに唯一の女性の名前が記されています。それが二段目中ほどにある「押川つね」です。ここに名前が挙げた人物らからの反発も容易に予想される中で、あえて妻・常子の名前を挙げた押川。いまだ女子教育の必要性も理解されていなかった時代、仙台神学校設立直後にすでに宮城女学校の設立にも積極的に関与していた方義は、後の女性解放論者と同様の主張を先取りした存在でもあった可能性があります。

このように、多様にして多才な能力を持ちながら、毀誉褒貶の多い人生を歩んだ押川、本学に残された貴重な資料の解読を通じて、これからも本学にかかわる皆様に、その魅力あふれる姿をお伝えしていければと願っています。

Masayoshi Oshikawa



押川方義と その時代

 学校法人 東北学院



生家と養家の家族



■神川家・橋本家の家族写真（神川家文庫）
 方義の従軍慰問所から撮影した1889（明治23）年5月以
 降に向家（左）の記念写真として撮影されたと推定される。向って
 右側に神川家、左側に橋本家の家族が写る。



■神川方義の愛蔵
 この時代、関西以西の地域では、誕生7日目に赤子
 の命名をこなす「七夜の儀式」を以て、母親（明婦）
 を別名で呼称があった。方義の誕生の時から採用された名
 刺は、包紙に染抜橋本姓名の遺稿で、「橋本政経」後
 永二年十二月廿日付」と記されている。調紙あつた方義
 の誕生日を確定する材料となった。



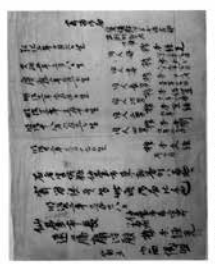
■書写橋本姓光の調紙・愛蔵・複製（神川家文庫）
 明治30年10月6日の調紙から、様紙（ゆきあきし）は
 記からは、16歳とされた文字2行に3歳追加したことか
 かる。武蔵の明石は不明かとして、船橋か、ことか
 を併せて、丁張は不明かとした。調紙文書にこの日
 の調紙が貼られることは、向ったの穴である橋本日との調紙
 深い7月の発別思いがけいよつである。

明治維新と神川家の仙台移住

◆松山藩は明治維新後、朝敵としていそぎ土佐藩に軍事品買入れたが、新政府に軍費
 一五万石を納めるなど、恭順の努力を示して、危機を脱した。一八七二（明治四年）の慶
 應義、松山県石見鎮を移して、一八七三（明治五）年愛媛県に編入される。この間、神川方
 義は、藩命で留守した先の鶴岡でキリスト教の信託に離れ、一八七二（明治五）年に受洗、
 一八七六（明治十）年に親類で伝道を助する。その後一八八〇（明治一三）年九月、仙台を
 あらたな伝道所として移住し、愛媛から養子と長男方存（一八七六年誕生、養母より
 養育を受け、当地愛媛の新家とした。翌一八八二（明治一四）年、方義が離世している。

養父橋本姓光の仙台移住

◆方義の養父、橋本姓光は、明治維新後、
 松山藩の軍曹を経て、陸軍士官となった。
 一八八〇（明治一三）年、愛媛県庁に入り、
 財政課勤務係などを務めている。
 ◆一八八六（明治一九）年に愛媛仙台神
 学校を創立すると、姓光は同年県庁を退職、
 松山を出潤町で職を引き退き、母と妻子
 を連れて仙台に移住した。一八九九（明治
 三二）年提出の届出によれば、仙台市東
 二重八番地の借家で家族の移住を始め
 たことが知られる。
 ◆姓光はその後、方義が伝道を始める東
 北基督教本部に入学し、一八九四（明治
 二七）年、神学校神学課程の期生とし
 て卒業した。なお松山中に宣教師の校
 主担任している。



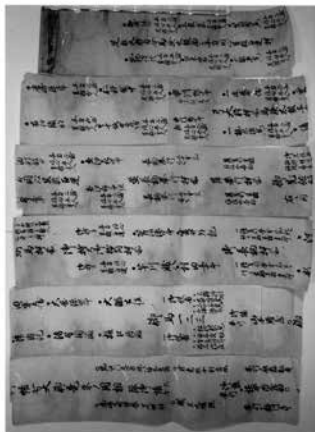
■橋本姓光の仙台移住届（神川家文庫）
 仙台移住届3年を待た1889（明治22）年1月に提出されている。
 姓光（43歳）の家族は母方丈（30歳）・長男方存（11
 歳）・二男方存（7歳）・三男方存（4歳）・四男方存（1ヶ月）の7人であった。



■松山藩政下の橋本姓光の調紙を伝える文書（神川家文庫）
 藩政の藩下にはさまざまな小姓御頭として出仕した後、「新政府軍」の調紙に父兄の自状により橋本家の調紙取りと
 加藤政経を併せて、養子方存（3年）の調紙の取調書となる。この間に父兄の自状により、方義の調紙取りと
 して家族を引取った。互いの部隊修業の取調書が併記されていることなどが知られる。

押川家文書のなかの近世文書

◆本学蔵押川家文書には押川家・奥平家の家歴にかかわる史料群のほか、松山藩政に関わる文書が広まると見られる。詳細な調査と分析は後の作業とだが、ここに近世の一部を紹介する。



■**幕立新簡（正保元年）**（押川家文書）
松山藩は1644（正保元）年、長崎港での貿易船来航対策として簡編の担当を命じられた。そのさいに作成された係列簡の写しとみられる。



■**散兵方**（押川家文書）
軍隊の行進と合わせた太鼓の打ち方を説いている。右側の丸兄様本持光は松山藩の洋式軍隊の組織化に伴い、散兵士に就任した。その折に作成あるいは書写された可能性がある。

■**曹・副・旗手・本刀・旗の仕様と製法についての伝来文書**（押川家文書）
これらの史料は押川家が兵備を伝える家として残してきたものとみられる。



■**山口藩左衛門知能「寛文日記」** 寛文二年・同三年・同四年（押川家文書）
筆者の山口藩左衛門は松山藩上の名簿である「松山藩御勘定」「松山武鑑」などに該当人物が見当たらないが、記録の全体は日々の勤務、知行所の農民の動向、家の行事などを詳細に記すものとして貴重である。

大日本海外教育会への関わり

◆大日本海外教育会は、日清戦争勃発を契機に、一八九四(明治廿七)年二月、押川方義、本多庸一、松村介石、藤本善治、原田助らが発起人となって結成された。同会設立の目的は、各自土、朝鮮半島で日本語教育を行うこと、近代教育を普及させることであつたが、そこには日本が「東洋の文化を伝へ、世界の大道を築くため」に、まず人々の「心算を開き、其国力を強め、其國計を盛し、真に善長雄健なる一國を築く基礎を育むること」という意図も含まれていた(大日本海外教育会会目「女学雑誌」第四二五頁、一八九五書)。

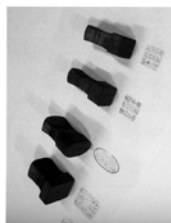
◆同会の結成にあつては、副会長を押川理事を多く務めていたが、のちに、会長には大隈重信(会葬葬には浪浪一が就任した。このほか、顧問人として、井上馨、板垣退助、新藤兼人、海軍卿正など、政界・財界・教育・宗教界などの有力者が名を連ねている。また、このなかには、遼陽副治官松尾一郎など、仙台市・宮城県の有力量者も含まれていたほか、吉田半衛や川信卓が、押川の美名ある橋本健の名前もみられる。

◆一八九六(明治廿九)年四月、大日本海外教育会は、京城(現在のソウル)南部に弘光学校である弘光学院を設立した。また、一八九九(明治三十二年)には、釜山(釜山)に三南学院も設立した。

◆その後、大日本海外教育会活動がどのような展開を遂げたのかは不明な点も多い。しかし、一九〇年代半ば以降、日本が軍国政策を美

徳し、国家として日本国教が導入されるようになったことを見ると、大日本海外教育会による学校運営は韓国の近代教育の普及の役割を果たすと同時に、日本の勢力圏の橋頭堡となつたといえるだろう(編纂委員「教育者について」田嶋末『日韓交渉の一事例』、教員史学会紀要編集委員会編『日本の教育史』九三頁)。

◆『東北学百年史』では、この大日本海外教育会の活動は、押川がやがて東京学院を去り、キリスト教からも離れていく筈引がすにここに脈通している」と述べられている(四二五頁)。押川は、この大日本海外教育会の活動を通して、道義に固つた道義者となり、国家の、そして民族の、さらにはアジアの国家的繁栄、政治的振興、植民地支配からの解放などを旨とするに重点を置いたといふ(同)。そこには、押川独自の「大々大々主義への道」がみえてくると(三九六頁)。



■大日本海外教育会の各種印鑑

設立に関わった人々



本多 庸一
(国立国会図書館「近代日本の肖像」より)



松村 介石
(『漢学研究』「朝鮮教化の発展」編纂社、1913年、国立国会図書館蔵)



押川 方義



松村 介石



■『女学雑誌』第415号(明治28)年10月25日、大日本海外教育会の設立主旨のほか、同会の憲法や創設者の名前が掲載されている。

IV アジア主義者・実業家・思想家時代

「朝鮮利権」事件への関与

「朝鮮利権」問題とは

- ◆一九〇四(明治三七)年の日露戦争の最中に発覚した国難問題。
- ◆その内容は、露艦地の開港場や砂鉄、石油の官売権といつた三ヶ条に官利権を、開港場に譲渡するといふものであった。
- ◆情報を得た日本外務省の圧力によつて計画は頓挫せられ、開港場の背景などは未だ謎をなす。



■任韓林種助公使、小村野本閣外務大臣宛外交電報 (1905(明治38)年4月1日 アジア歴史資料センター、80401199000)

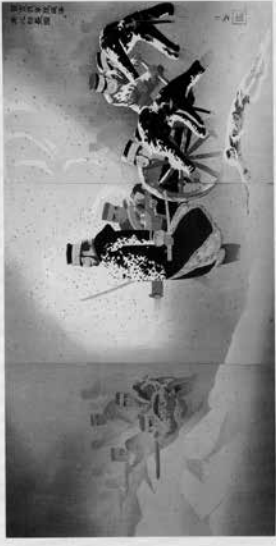
○外務省に送られている記録によれば、事の始まりは、日本国内で義兵に逮捕された韓国人李逸(即) 柳が、「日韓同志軍代表者タル押川方義」らと韓国宮内大臣李載元との間で成立調印された23件の利権譲渡に関する契約書を保持していたことである。

○李逸柳はこの時、甲申乱容に失敗し日本に亡命していた金玉均らの暗殺の任第一回としての秘密探偵の密命も受けていたともされるが、なお謎が残る。

○河運軍の海外には、それぞれ総理大臣、伊藤博文、陸軍大臣、海軍大臣、山縣有朋を示すと考えられる「樞密、総、伊、海、山縣」の記載があり、当時の成議決定者らに回顧されるほどの重大な事件であったことが分かる。

当時の朝鮮半島情勢とは

- ◆一八七五(明治八)年の江華島事件以降に積極的な朝鮮半島への進出を行っていた日本は、一八九五(明治二八)年に日清戦争に勝利した後、中国北部に進出してきたロシア帝国との軋轢を遂げていた。
- ◆それに対して朝鮮国内では、露宗問題はロシアを頼りつつも、一国による支配ではなく、諸外国による勢力均衡状態の形成を望み、積極的にアメリカ、イギリス、フランスを巻き込んだ外交政策を展開した。それに対して、日本政府は朝鮮半島の政治的支配権の確立に向け、イギリスの協力を図っていく。そして日露同盟締結後の一九〇四(明治三七)年八月日に日露戦争が開始された。
- ◆日本開戦後の八月には第二次日露協約を締結し、日本人の財政顧問を置くことを認めさせ、「韓国政府外閣トノ条約締結其重要トル外交案件即チ自人ニ対スル行政、議決若シ契約等ノ処理ニ關シテハ自日本政府ト協議スベシ」として、日本政府との事前協議なしに、韓国国内の利権を譲渡する事を禁じた。このことが、押川の苦闘が重大な国難問題となる背景となる。



■日清戦争争議 小林清郎画「青雲我軍現成海新之聖盟図」

「朝鮮権利」の侵害と

朝鮮沿岸の権利を認め立てる権利や、牧場典権の権利に比べて、農地所有、地権の権利は侵害された状態、かつ根拠は確立してあったことが分かる。

■「東洋権益論」一冊、林公使、臨時外務大臣桂太郎探
(1905 (明治38)年7月19日 アジア歴史資料センター、B0401199000)

日本政府の対応とその経緯

- ◆政府の憂を受けた任團公使林公使は、一九〇五(明治三八)年七月に韓国政府に対し左記のような「警告」を本文した。
- ◆林はさらにも、韓国政府及び宮中の「韓朝ノ事蹟」を責め、このような事柄が起ると韓国は「下流ノ境域ニ墮スル」と、激しい言葉を吐き出している。
- ◆そして遂に警告は計画を断念し、春世に責を負わせる形で、春と対して済州島の終身監禁という処分を下すことになる。

■「東洋権益論」一冊、林公使、臨時外務大臣桂太郎探
(1905 (明治38)年7月19日 アジア歴史資料センター、B0401199000)

小村寿太郎の怒り

◆左記の題で、外務大臣小村寿太郎は、取し二箇ノ文字返リニ韓人利権譲與ノ事ハ我邦利益ハ根柢ヲ蝕シテ知テ有名無実ニ墮ルベシ、怒りをあらわにし、日本政府にはかゝることなく、押川に権益を譲渡した行為は、第二次朝鮮協約違反行為に当たると強く詰問した。

■「小村外務大臣探、林公使権益論電報」
(1905 (明治38)年6月27日 アジア歴史資料センター、B0401199000)

「韓国事情問題」

■「韓国事情問題」
(1905 (明治38)年7月19日 アジア歴史資料センター、B0401199000)

頭取者について外務省選定していた野田行から外務省に伝えられた情報である。ここでは合衆の情報は「大塚田ノ死傷」があり、更に入隊を遂げて伊藤博文や大塚親らも関わりをもっていたとされている。

押川の狙いとは

- ◆押川は何故日露戦争の最中というタイミングで、このような権益獲得活動を行ったのか。押川の日記「還魂 押川方義」によれば、押川は日露戦争に負けたとしても、日本に利権が没収を運んだとされている。
- ◆ただし担当事者らにとっても、露韓間には必勝自強しがなかつたことを考えれば、その可能性は高い。しかしながら、日本の露親守の調査によれば、同計画の最中は大隈首相、伊藤首相が亡くなったこと、可能性が指摘されており、事件の善否ははた誰が言われている。

白瀬 直

1861 — 1946



(白瀬直探検隊記念館所蔵)

◆白瀬直は一八六一(文政三)年六月三日、出羽国田代郡金浦村現在の萩田にかほ世にある薩摩藩の長男として生まれ、二十九年(明治二)年に軍人を自願して、日清の陸軍教導隊兵科に入隊した。

■ 神川との関わり

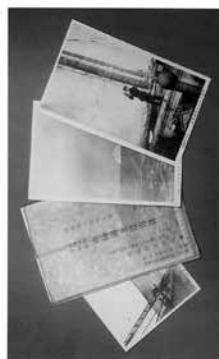
◆一八七三(明治六)年、将来の北極探検をみすえ千島探検を目指し、郡司成高藩軍大尉(文豪 幸田露伴)が中心の一隊として最北端の占守島に上陸。以後越冬生活を続けることになる。

◆一八八五(明治一八)年、占守島で二度目の越冬途中には六人のうち三人が水痘病(麻疹)で死したが、この時、東京学院神学塾生出身の高橋真五郎も死した。

◆一九〇九(明治四二)年、アメリカの探検

家ジョージの北極探検隊を知って志を高く燃へた白瀬を援助するために一九一〇(明治四三)年十月五日に大陸産品協同会会長 神川翁会長とした「南極探検後援会」が設立された。白瀬はコーディネーター、オリエントリアを申請しながら一九二〇(明治五三)年一月二〇日にタラシで南極点に向かおうとした。一月二十六日午後〇時〇分、南緯八〇度五分、西経一五六度三十分に着陸し、白瀬を立て、視野に全く地味を「大南極」を名づけ、日本領土を宣言した。

◆「南極探検隊」が帰国すると、白瀬らは盛大な歓迎を迎えられるが、白瀬はこの探検で莫大の借金を背負うことになり、終生その返済に追われることになる。



■「日本南極探検隊 南極圏光景写真集」(神川邸文庫) 南極探検隊帰来後、探検隊に発行された探検報告であり、神川家に伝わったものである。

■ 未定訳史料の紹介

■白瀬直が、神川翁探検隊(神川邸文庫) 作成の史料ではないものの、内容は神川に大南極に向かおうとする意図を感懐するものがあり、「切腹を覚悟する」という記述がみられることから、南極探検以前のものであり、南極探検後援会会長への意図である可能性が高い。



■ 白瀬直、故郷川乃儀先生と神学塾修業会修業簿

1928(昭和3)年3月16日(神川邸文庫) 神川の死去後には、神川翁にあてて送られた白瀬の書簡である。神川と白瀬の出会いから、郡司成高の千島探検、南極探検、そして家生にわたる神川とのかわりについて伝える貴重な書簡である。 これによれば白瀬と神川の出会い、明治15・6年ごろにさかのぼる。神川は当時仙台伝道所助役のほかに、東京で「騎兵下士」であった白瀬が、たまたま仙台市二日町の一家で神川の記法を聞き、その「偉の如き熱烈なる神の道を信じたるを切」であった。

NOBU SHIRASE

川島 芳子

1907 — 1948



(松本市歴史の里所蔵)

◆一九〇七（明治四〇）年五月二十四日に清王朝の皇族である清親王の第四女として生まれ、父外交のあつた川島浪速の長女となる。

◆男装をして、開業医の講習員として中国大陸に渡入り、一九三二（昭和七）年の上海虐殺のきっかけを作つたともいわれているが、不明な点も多い。

◆その真影は清國皇族出身という血筋、男装によつて世からの注目を集め、「東洋のメロンス・ダルク」の「男装の麗人」と愛された。

◆一九四五（昭和二〇）年に北京で中国国民党に逮捕され、「買収」であるとして新報社法を受け、一九四八（昭和二三）年三月五日に処刑された。

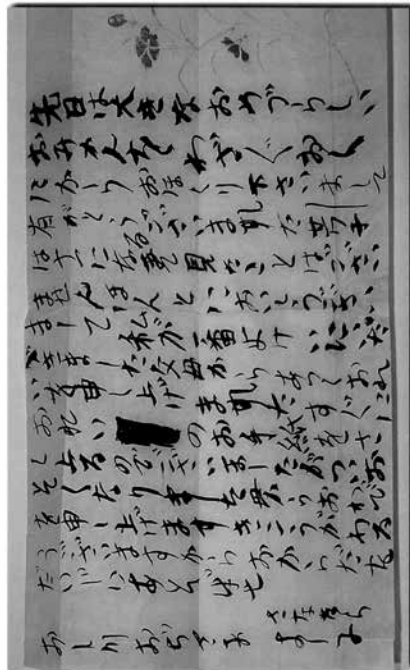
押川との関わり

◆押川は、仙台神学校を卒業した後、朝鮮半島におもむき教育事業に携わり、一九〇〇（明治三三）年には清國で、皇族学校の設立という清國主義を象徴とした教育事業を計画した。

◆押川と芳子の関わりが正確にいづらうたのは今後の課題であるが、押川は清親王家を中心とした満蒙拓殖運動に加担し、その中で清親王・川島浪速と交友を深めて以降のことだと考えられる。

★新発見史料の紹介★

本書には、今まで公せられてこなかった川島芳子から押川家に関しての経緯が所収されている。特に芳子の幼少期を伝える史料は豊富であり、ここで紹介したい。



■みかんの手紙（押川家文庫）

川島芳子11才の時の手紙（お母様）である。漢字も混在され、文字もたまたまどしいが、後に「女中ハイ」でも呼ばれることとなる芳子とは、全く異なる姿を伺える自筆の史料である。芳子と押川の親しい関係をうかがわせる内容が读ばれます。



2013年度

第18回 キリスト者教員研修会報告

第 18 回キリスト者教員研修会プログラム

日時：2014（平成 26）年 1 月 23 日（木）

15:00～19:30

場所：仙台国際ホテル

総合司会 大学宗教主任 野村 信

時間・会場	内 容
15:00～15:30	<p>開会礼拝</p> <p>司会・説教 大学宗教主任 原口尚彰</p> <p>讃美歌 『讃美歌 21』 226 番</p> <p>聖 書 ローマの信徒への手紙 12 節 1 章～2 章</p> <p>説 教 「生活の中心としての礼拝」</p> <p>祈 禱</p> <p>讃美歌 『讃美歌 21』 88 番</p>
15:30～15:45	<p>コーヒーブレイク</p>
15:45～16:45	<p>主題講演「大学礼拝の説教について」</p> <p>講師 学長 松本宣郎</p> <p>司会 大学宗教主任 原田浩司</p>
16:45～18:00	<p>自由討議</p> <p>司会 大学宗教主任 出村みや子</p> <p>発題をめぐって</p>
18:00～19:30	<p>クリスチャン・フェローシップ</p> <p>司会 大学宗教主任 野村 信</p> <p>閉会</p>

キリスト者教員研修会報告【発題資料1】

「大学礼拝の説教について」

学 長 松本 宣郎

1. 教会人としての私の歩み
2. 説教に育てられる（参考資料あり）
3. 東北学院大学の礼拝と説教

熱くもなく、冷たくもなく

学長 松本宣郎

ヨハネの黙示録 3

- 14 ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ、『アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。15 「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。16 熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。17 あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっている。18 そこで、あなたに勧めます。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い衣を買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬を買うがよい。

「ヨハネの黙示録」は新約聖書の末尾に置かれるだけあって、他の新約文書のどれとも似つかない特異な文書です。大部分は天空を舞台に繰り上げられる壮大な、映像的な描写のドラマです。それは映画のスペクタクル、あるいは SF の世界のようにすら感じられます。

キリストの愛した弟子ヨハネが高齢になったころ、エフェソで、神から得た啓示を書き記したと、一章冒頭で語られています。その啓示は「黙示」と言われています。神が人間に伝えたいことを、一見不可思議な言葉や幻で示す、というこの表現形式は、ユダヤ教文書の一つの分野であり、旧約の「ダニエル書」などがその例だと言われます。

けれど「ヨハネ黙示録」の最初の三つの章はまだプロローグで、「アジア州」、今の小アジア半島、アナトリアとも呼ばれる地方、現在のトルコ共和国の西方、エーゲ海寄りの地域にあった七つの町の教会に宛ててヨハネが送った神の言葉、となっています。エフェソには異端と戦ったことをほめ、スミルナにはユダヤ人から受ける迫害に耐えるよう励ます、など、教会ごとに異なる内容となっています。私たちはこれらの手紙を、他の新約文書の書簡と同じように、私たちに宛てて語られた言葉としても読むことができます。今日は「ラオディキアにある教会」への手紙を取り上げました。ここでは、「熱くも冷たくもなく、なまぬるい」ことがとがめられています。そのことを考えてみたいと思います。

さて、ラオディキアという町は、「黙示録」で挙げられた町の中では内陸に位置していました。主要な街道沿いにあったので物産の動きが便利で、羊毛の織物生産地とし

て有名になり、豊かな町でした。そのことは一七節からもうかがえます。神はラオディキア人が、一切欠乏を感じないほど金持ちだと豪語している、と見ているのです。またこの町は何かの薬品の生産でも知られていたようです(一八節)。

そのような町に教会をもつラオディキア人に、「あなた方の行いは冷たくもなく、熱くもない。なまぬるい。冷たいか熱いか、どちらかであれ」、と神は告げるのです。

「行い」とはありますが、熱さ、冷たさで言われているのは、キリストへの信仰の姿勢であると考えてよいと思います。これはよく分かる言い方です。現代の私たちの間でもありそうな表現です。そういえば、今年の仙台、東北は、プロ野球チームの優勝で、ずいぶん「熱く」なったではありませんか。応援に燃えなければ仙台人ではない、というような雰囲気がありました。

ラオディキア人へののがめにもどると、キリスト教徒であるからには、熱心に求め、祈り、行うようであってほしい。いい加減な信仰生活で過ごすくらいなら、いっそキリスト教を否定する多神教徒であるほうがまだ、と論されている、という取り方をされてきました。しかし、近年の聖書解釈によると少し違う指摘をする人が多いようです。すなわち、ここで「熱い」と同様「冷たい」も悪いと言われているのではない、重大なのは「なまぬるい」ということなのだ、と。確かに、「冷たい」が英語で cold なら、冷淡とか冷酷とか、いい意味はないのですが、これを cool と訳すと、「涼しい」に加えて冷静、理性的、そしてかっこいい、という意味まで持つことになります。まあ「冷たい」の意味についてはここまでしておきましょう。

「なまぬるい」ラオディキアのキリスト教徒とはどういう人々なのか。彼らはキリスト教信仰についても教会についても知っていますが、富やそれを獲得する仕事の方が神よりも大事だという生活をし、人間の罪深さや真の貧しさとか、キリストによる罪の贖い、などを深く思うことのない人々、ということでしょう。ぜいたく品を買い集めるのには熱心でも、ひたすら神を求める教会の生活は二の次、という人々です。

神は「なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」と言います(一六節)。「口」に入れる、というイメージがやはり黙示文学的かもしれませんが、「吐き出す」というのはただ事ではない、と捉えるべきでしょう。神と富と二股かけるような人間など神は関わらない、との断絶の宣言なのです。

ラオディキア人はこの宣言に立ちすくんだでしょう。では、この手紙が、今私たちに向けられている、として、私たちの信仰生活は「熱い」でしょうか、それとも「なまぬるい」でしょうか。

「熱い！」と答えられる人は、実はほとんどいない、という思いがします。特に日本人はそうかも知れません。教会に行くより仕事を優先させるとか、聖書よりも俗世間的な価値判断で物事を処理しがちだ、とか「なまぬるさ」現象を数え上げたらきりがなくかも知れません。でも、神は「なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そう」、もうあなたは去ってしまえ、と言われるのです。

しかし神は、なまぬるいラオディキア人に、悔い改めの機会と方法を用意しておられます。なまぬるさを自覚する私たちにもそうならざるはずはありません。熱くなりたいたいものです。そのとき、忘れてならないのは、私たちがキリストにひたすら頼り、従う、ということです。なまぬるさは私たちの弱さ、究極的には罪のゆえなのです。抜け出すことは実は自力では出来ないのです。だから、人類の罪を一身に引き受けて、身代わりとなって死んで、しかし復活したキリストに助けを求めるのです。熱心に、「熱く」求めるとき、それが認められないはずはない、と信じるのです。

本日の「黙示録」3章をさらに読み進むとそのことが暗示されていることがわかります。「だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」(一九、二〇節)。キリストから手を延べてくださるのです。私たちは熱くなれるのです。

祈り: 私たちの主、イエス・キリストの父なる神さま。弱さと愚かさを自覚する私
たちです。神を信じることに、あなたの目からは「なまぬるい」とし
か見なされないとします。けれど、私たちは救いを求めます。どうか熱く
キリストを信じ、頼るようであらせてください。戸を開けさせてください。
この切なる願いを、尊き主、イエス・キリストの御名によってお捧げいたし
ます。

配布資料

松本宣郎 「説教に育てられる」『説教黙想アレテイア』No.75、2012年。

説教黙想

2012
No. 75

アルテア

加藤常昭

説教に育てられる

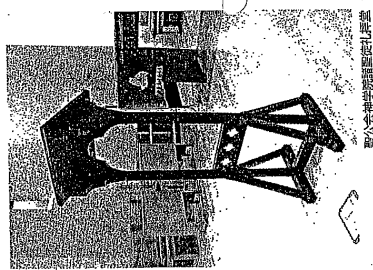
松本宣郎

連続講解説教黙想

ルカによる福音書

5章33節—7章23節

- 平野克己 橋谷英徳 吉村和雄 高橋昌幸
- 藤念 望 古倉治雄 上田光正 小副川幸孝
- 佐藤司郎 梅原善行 徳善義和 高橋 誠
- 加藤常昭



【連載】

●海外新刊情報

Grundfragen der Predigt 中道基夫

●ブックレビュー

日本の説教Ⅱ「北森嘉蔵」 倉松 功

CDで聴く日本の説教「島村亀韓」 高橋良隆

「説教をめぐる知恵の言葉」 久世そらち

●牧会者のポートレート、白柳誠一 深水正勝

説教の道しるべ 聖句解説360日

小島誠志

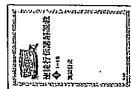


法語の「聖句黙想」シリーズから選んだ総題360題を精選し、一日一章として再編集。日ごとに着しむ言葉に出会い、生きるための力を与えられる珠玉の言葉。ハンタイで読みやすいA6判(全通)。プレゼントにも最適です！

●1,575円

渡辺信夫 伝道行伝講解説教 全4巻

渡辺信夫



『マリアム教義』の訳者として知られる著者が、カルヴァンの講解説教のスタイルを踏襲しつつ、現代に何か一つ新しく神の言葉を響かせる。キリストの教会を建て上げるために伝道者として生涯を生きた著者による引渡前の最後の講解説教。

- 1. 1-5章 (380頁) ●2,600円
- 2. 6-10章 (380頁) ●2,600円
- 3. 11-17章 (370頁) ●2,700円
- 4. 18-28章 (380頁) ●2,700円

新しい歌を主に 聖句黙想

黒木安信

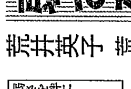


詩篇は「慰めと希望の書」である。私たちは詩篇のどこかに自分の祈りを見いだし、折々の喜びを慰しみ、喜びや感謝に出会うことができる。本書は詩篇1-50篇を一編ずつひもどくことにより、詩人たちの心に触れ、神への新しい賛美へと読者を導く。

●1,800円

創世記に聞く 初めと終わりを生かす 起るよ光を放て—トリスティアス—説教

荒井英子



創世記に聞く—初めと終わりを生かす ●1,800円
起るよ光を放て—トリスティアス—説教 ●1,800円

罪を悔い改む 聖句黙想

荒井英子

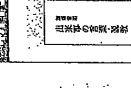


過去を悔罪するのではなく、その苦しみを受け継ぎに生きるため、病人、障害者、女性の安全な福祉の復興を目指して語る。著者自身のメッセージ。

●1,800円

出采書の言葉・説教

加藤常昭



われわれの説教はどうして《解釈》と《應用》に分かれてしまうのだろうか？そこに潜む律法主義を克服できないのだろうか？読者を喜びの福音へと招き入れるためにはどうすればよいのか？現代日本における伝道と教会形成の課題を見据えながら、説教產生の理を問う二つの考察。

●4,720円

shop教文館 <http://www.shopkyobunkan.com>
Printed in Japan. 配給元 日中版 印刷所 文堂堂印刷 雑誌 05659-1

説教に育てられる

東京大学名誉教授 内藤謙三 松本宣郎

I はじめに 指名をいただいて「説教」をテーマに着くことになった。一信徒、一長老として話すことが期待されているものと思う。幸いにも求められたのは、「語りかける気持で話す」ユツセイである。踏み込んだ説教論に取り組みことも、仮に試みる者が信徒であるにしてもなすべきことだとは思いますが、ここはその教会ではなく、また心構えの余裕もない。私が教会人となることを許されて五〇年足らずの歩みを「説教」をキーワードにして振り返ってみたい。

説教の「聴き手」としての資格が求められた。確かに私の教会生活五〇年の九割の期間、つい三年前まで私にとって説教は、聴くものであった。教会学校教師はほとんど経験しなかったから、小中学生に説教を聞かされたこともない。せいぜい聖歌になつてから、時々幼児クラスでお話をしたくらいだった。それが、定年後キリスト教学学校に勤務することになって状況が変つた。キリスト者として私は聖句の読みとも言うべき聴きの場所を得た、と考えているが、役目の上では幼稚園児から中高大学生、総員員まで

を対象に礼拝の「説教」を語るという務めを負うことになった。そういう次第で、本稿の後段で、説教を聴くだけでなく、語らざるを得なくなった経験から思ふに至つたことも話すことをお許しいただきたい。もとより教会の講壇でなされる説教と、キリスト教学学校において、ここにシスターの役職者が語るそれとを同一に論じるべきではないだろうから、しかるべき留意をおいた上でのことにはしたい。また、東日本にいる者として、大震災後の被災地教会でなされている説教、という観点からも述べるつもりである。

II 信仰の歩みと説教 私の二人の祖父がキリスト信仰を得た。両親は、その祖父たちの祈りがあつたと思われるが、時がかかり、父が三〇歳、母は四〇歳で洗礼を受けた。どちらも母の父の影響が強く、従父長く長老を務めた岡山の誓山町教会員となつた。私は高校生の時から定期的に礼拝に出席するようになり、三年生で洗礼を受けた。牧師は内藤謙三先生（現教団総務長）だつた。私は大熱心な青年信徒になつたと思ふが、説教を教会と礼拝の中に正しく位置づけて理解するに至つてはしなかつた。東京の大学

に入學したが、休学中には必ず帰省して母教会の青年の交わりに密に関わつて、教会に入り居るようであつたから、私の教会生活の形とか、基本のスタンスは誓山町教会を養われたと思う。聖書を読むこと、祈ること（祈禱会に出席すること）、礼拝には出席するものなどということ、から讃美歌は大きな声で歌うもの、何であれ奉仕すること、などまで、現在に至るまで守つていることが、できる。ただし、説教については、ただ聞くだけの姿勢としたレベルだつたらう。もつとも、わずかなすつでも信仰的理解の積み重ねはあつたと思われる。少なくとも、説教とは、聖書についてもつばら語るものなのだ、という観念が育てられたことは確かである。

実はこの岡山での教会生活と、東京で始まつた教会生活の経験とは二、三年並行したのである。内藤牧師が指示してくれたのは、竹森謙三一牧師がおられた吉祥寺教会に通うことだつた。私の大学のキャンパスと、世話になる伯父の家に行くのに便利で、そし

て吉祥寺に近い井の頭に下宿住まいをする、と内藤牧師に伝えながら、という理由ではなかつただろうと思う。私自身竹森牧師について、何も知らなかつたのだから、内藤牧師の配慮に感謝する他はない。というのも吉祥寺教会の教会生活は、誓山町に比べて当時大学一年生の私には親近には感じだもの、竹森牧師の説教は、私のその後の信仰生活における説教というものの基本理念となつたからである。絵画や音楽の鑑賞眼を肥やすには最善の作品だけを味わえ、とよく言われるようである。竹森牧師の説教について、同じことを言つて過言なのかどうか、ためられるところもあるが、吉祥寺教会で一四年間を続けられた説教は、私の信仰を養ひ、強め、そして何より動かしなつたことには間違いないことである。

夫人のトヨ牧師共々、私たちが夫婦を救していただき、良いお交わりをいただいた。他念に背負つて、その年に宮城県沖地震があつた。最初に心配して電話をよこされたのが竹森謙三一牧師であ

諸聖人の福音 荒木 関 巧 著

毎日のミサ典礼にそつた聖書のみことばの黙想書



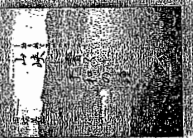
身近な出来事や語り上げた、カトリックの歴史による聖書のみことばの黙想書。聖書の如く、福音書や聖書学校、また、福音書の系譜をとりまわす。福音書のみことば。聖書目録にともなひては日本福音派連合会「新訳聖書」を用ひ、大が、抄訳、抄訳の語分もあつた。

B6判 縦書き 367頁

満蒙開拓団―その悲しい歴史を訪ねる旅

山峽に響く平和の鐘

田端 美電子 著



戦後、隠された歴史の裏面に迫るべく、著者は、戦艦の体験を支那に訪ね歩き、その血を流すような苦闘の足跡を、追うこととして、開拓団の歴史を、ついに無しの歴史を、開拓団の地に響く平和の鐘の祈りが、本書を著して平和を達成させた。

B6判 縦書き 200頁

サンパロ

〒100-0004 東京都千代田区千代田1-21-9
TEL:03-3359-0451 FAX:03-3351-4534
http://www.sanparo.org.jp

た。いちいち本柄になじまない個人の経歴ではあるが、敬虔にこんなことを記すのも、説教を聴く者と語る者との関係については、これに裏返して重畳をおくことは義に對けざるべきではあるが、説教者にも(キリストに対してと同様)敬虔と稱し、信順の念をもって耳を傾けることができるなら、それは望ましいことと言つてはいいだらうと思われるからである。

一九六五年四月から吉祥寺教会に通い始めた。竹森牧師の生涯はこの年からの一四年はどのような時代であったのが、私は判断のしようがない。私はとにかく説教をよく聴いた。二人の娘が生まれる前後、妻が礼拝を欠席している間、週報にその日の説教を筆記して妻に読ませることをしたのも聴き方を丁寧にすることに役立ったかも知れない。当時は福音書よりもパウロ書簡の講解説教が多かったと記憶する。

竹森牧師の説教は、このようにすべて講解と言つてよく、内容はほとんど福音書として後に公刊されたから、その内容を紹介する必要はないであらう。聖書から離れることなく、信仰者として受け止めるべきメッセージを示す点で、いつ聴いても全くふれない説教であった。礼拝の形式に関し、母教会での経歴と違つたのは、回式者として長老を立てない、聖書は旧約と新約の二か所を讀む(その後私の母教会もそうなった)、ということだ。

できるだけはずけることを望んで、み言葉に集中させる礼拝であることは当時の私にも理解できた。講義の要約にも讀みだし、週報もその教会でも書道掲載する、前の週の出席者数や献金額などの情報は一切なく、礼拝次第の右の頁には前の週の説教の要

約が書かれていた。竹森牧師が聴かざるを禁じたのは説教だけでなく、形式においてもそうだったのである。何かの時、信徒講座のような場であつたと思うが、同牧師には珍しは聖書講を聞いたことを覚えていいる。「神学生の際にいた時、神学生仲間と、信仰に関わることは一切口にしないで会話しようと思つて実行したことがある。風呂の時でも何でもそうしようと。もつともあきらまなくは離れなかつたがね。こんな話もある。」「聖書の一句一句に神のみ心が込められている。説教で語り尽くすことはできない。ある時授業で、聖書一節だけを用いて一つの説教を語つてゆく試みをしたことがある。伝説をつくらうとは思わないのでこれだけのことにする。

一四年手を経て私は仙台に移り、そのまま今に至つている。竹森牧師から現在寓している、やはり改革聖書派の教会を紹介された。その後二人の牧師に長老として仕えることになつた。お二人とも竹森牧師の薫陶を受けた牧師である。

Ⅲ 説教の理想型 竹森牧師の説教が如何にして理想型となつた。同牧師と離れて以後はその理想型に近い説教を語る牧師の多くで安心を得る、などと不遜な人間主義の発言を奮闘しているわけではない。しかし、キリスト者が教会に出陣するな、なじめなという思いを抱くことはやはりあるであらう。その時、説教を素直に、信仰の糧として聴くことができない、という理由を挙げるか、実は私も、海外生活をした時にその経験があつたことを告白せざるを得ない。

人間は教会の礼拝で、一度に一つの説教、つまり一人の説教者

の説教を聴けるだけである。毎週異なる教会の礼拝を経験する人もいるかも知れない。そんな経歴を何ヶ月か何年か積んだ後に、安心して出席できる教会、当人の言う良い牧師に出会えた、という話も聞かないではない。これを無難だとか信仰が狭いとか、せめて教会の伝統を同じくする教会の枠内で考えよ、などと指導せよすることに。これは無難な事例ではあるが、これに類するもう少し極端でない例はこの教会も経験していることであり、解容があるわけでもなく、難しい問題であると思う。こんな時私は、結局自分自身が教われるかどうかに第一の価値を置くべきであり、私が信仰的に満たされていると信じうる礼拝に連なつていることに感謝しておればよい。他の人々についてはただ神に祈り成しの御手を祈ることしかできない、と思うにとどまるのである。

ここまででは、要するに人間の側のとらえ方をしたために直面した問題であることを客観的に認識した上で、神の側、というより信仰の視点に身を投ぐことを怠る限り努力して、説教について考

えておく。聖書に聴く、もつぱら聖書から信仰の励ましを求めると私に満足しているともいえる言い方をしたのは、時に聴くことのある、政治や社会問題、区際争い、差別反対に時間を割く説教に通和感を覚えてきたからである。しかし、およそ人間が生きている社会から目を背けた信仰も教会もあり得ない、それは不誠実だ、という反論には、聖書に立ら、信仰に役立つことを聖書の中心とした説教が人間社会の問題に無関係なはずがない、と答へれば十分である。

説教が良く、正しいものかどうか、信仰の裏切りと否基か、という問題をトーンがそう簡単に判断できるだらうか、また、判断してよいだらうか。かつて私の母教会におられたある牧師は、教會員が礼拝後の集会で、その日の礼拝説教について、牧師に質問する機会を設けようと提案したところ、言下に拒否したという。説教はどのように教われるものではない、という理由であつた。

初めキリスト者の実像を、社会の観点から丁寧に紐解く

キリスト教徒が生きたローマ帝国

キリスト教公認以前のキリスト教徒は、「現世」の中で死と隣り合わせの日々を送つていたのであろうか。白眼視されながらもローマ帝国社会に定着し、信仰生活を営んでいた彼らの実態をいかに、ついにキリスト教国化に至るその謎に迫る。

◆四六冊上巻・292頁・21520円

日本キリスト教団出版局
1980年刊
〒100 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-3233-1111
FAX 03-3233-1112
http://www.jp.ducel.or.jp

秋本直郎 著作

私は先に述べた通り、竹森牧師の説教をキリスト教の礼拝説教として正しくよむものと信じ、また感した。だがそれは宗教感性的に満足できるからだけのことだったのか。もちろん、そうではなく、礼拝説教はしるべき信仰をもたず、神学の学びを途で資格を得た牧師が、霊書の書きを助けとし、霊的状態を通して、礼拝において語るもので、神の権威をもつものだが、したがって人はその日出席した礼拝で説教を神の恵みとしてそのまま傾聴すればよい、このこれも正備がある。むしろこのような神の権威があるにもかかわらず、現代教会の現状では、これは正論以上に、私たちの守るべき岩かも知れない。

キリスト教学校に属する場を得たことを語したが、それによって説教について私は新しい体験をすることになった。学生、生徒、園児そして教職員のための定期的な礼拝が行われる。入学式、クリスマス、創立記念などの行事でも礼拝がある。それ以前は日曜一回、基本的に同じ牧師の説教を聴いていた。それが毎回ことなる牧師、教師、一般信徒牧師の説教を聴くようになり、平均週一回自分でも説教を語るようになったのである。

以来私が思い、折っていることは、たとえばキリスト教学校は、教会とは別の目的と存在意義をもつものなのか、少なくとも礼拝を行うという意味で、聖礼典を欠くだけで、本質的に教会と同じ、あるいは同じであることを目指すものなのか、などの多くの重要な問題である。しかし、ここは説教に関して、そのキリスト教学校での新しい体験から、思うに至った考えを書いておこう。

私の学校でのこととは限らない。関係する諸キリスト教学校で

も礼拝に連なることが多くなった。違和感を覚える説教が確かにある。レマンの教師と牧師とを問わず、である。その感覚を共有してくれない関係者もいる。私の説教の理念であってほしいから、と発言しそれらを修正しようとすることは、私の傲慢なのか、人間の感情のレベルのことなのか、上述の時点に戻ってしまふ。現在は、私の学校で説教担当者の会合を聞き、少しずつ、学校で語る説教について学びの機会を得ることから始めたいと考えている。

少なくとも、自分の教会生活の中で育まれたと思う礼拝と説教を目標として自分が実践するとはかはない、というところである。聖書を中心に語る、準備においては聖書テキストを学び、黙想の時をとり、折って備えをする、聴く者(学生・生徒等)に顔を向ける、などである。基本は教会の礼拝なのかも知れない。しかし、時々身近な話題や、身近な体験を講義して話したりして、説教の導入としている自分に気づく。聴き手がほとんどノンクリスチャンである、ということが潜在意識となって、私のサリス精神を惹起するようだ。願わくは礼拝と説教が霊的、いつも正しい標準に立つものであってほしいと切に思う。

IV ポスト大震災の説教—むすびに代えて 大震災直後最初の日曜、三月三日の私の属する教会の出席者は二四名。通常の四分の一であった。司事自身が出席できず、私が代理に立った。牧師は聖書箇所を教養して、災厄に陥れるイサヤ四三・一二三を指定した。説教は聖書を語ったが、大震災についても語った。

震災以後、キリスト教会は様々な形で支援活動を行った。また

メディアやインターネットで牧師、神学者たちがキリスト教の立場から、動ましのメッセージを送ってきた。では礼拝と説教にはどのような影響があったらう。私には自分の教会と学校での諸礼拝での体験から推測するしかないが、震災前、七月まで、説教は必ず震災に言及し、被災者への連帯、励めを語り、折っていた。聖書箇所も、神の試練や迫害される者への祝福の聖句のある箇所が選ばれた。私も五月一八日の教職員礼拝で、「今わたしたちになにができること」と題し、「ローマ二・一」を引用して説教した。死者、震災被害者のために生き残って無事である私たちはどうするか、という文字通り震災をテーマとした説教であったが、キリストの教いの事実を知る私たちは、すべてを神にゆだねて、淡々と生きよう、と伝えたいつもりである。

被災地のただ中で語った説教者にはまた違う厳しい空気の中で礼拝があったかも知れない。政府の対策や電力会社への批判に終始した説教があったかも知れない。時に、キリスト者を立ち上

くまざる面があったのは、あの「ヨブ記」の深刻な問いであつたらう。悪いこともしていないのに、なぜ無罪に多くの、幼い者を命じた人たちのいのちが奪われるのか。私の学校でも、レマンの学長が、その神業論を説教で語った。彼は人間には解決が困難なこの問題をこれから考えよう、と留保した。

私にも多分被災者は納得させる説教を語る自信はない。しかし、「ハイアールベルク信仰問答」の第一の問「生きるときも死ぬときも、あなたの唯一のなごさめは何か」に返す答え「わたしがわたし自身のものではなく、イエス・キリストのものであること」を語るしかない、と思っている。九月のさる会で宮田光雄氏がバルトとナチズムについて語ったが、最後におはり震災の問題にふれバルトは非難で絶望的な大戦時に際し、「それでも今ここでキリストが支配しておられる」と宣言した、と教えてくれた。

ここに共通する観念が、私が育てられた教会の礼拝での説教から書き出される観念でもある。

肉声の音声が残る名説教を精選
CDで聴く日本の説教

竹森満佐一

加藤常昭 監修

CDで聴く名説教のCD
竹森満佐一

竹森満佐一は教会の礼拝を運
じてみ言葉語り続けた説教者
としてあつた。83歳で召されるま
で東京・吉祥寺教会の牧師と
して講壇に立ち続けた竹森。
このCDにはその礼拝で語られ
た代表的な説教を3編収録。

● 解説(小冊子) 64頁
● CD 2枚付

DISK1
【復活型】日本基督教(ヨハネ)
20章およびイサヤ(聖書)

DISK2
【福音書】ヨハネ(福音書)
【聖書】ヨハネ(福音書)

◆ 四六判 入箱入・3,570円

◆ リーズ系列

(4冊付録付) 3,570円 監修・上田好春
島村亀鶴

(4冊付録付) 3,570円 監修・榎本保郎
榎本保郎

(4冊付録付) 監修・羽仁もと子
羽仁もと子

(4冊付録付) 監修・渡辺善太
渡辺善太

日本キリスト教出版局

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-2222 FAX: 03-5561-0415
E-mail: jp@uccj.or.jp

<http://www.jp.uccj.or.jp>

2013 年度
第 39 回 サマーカレッジ

第 39 回サマー・カレッジプログラム

主題：「人物を通して見るキリスト教－宮沢賢治について学ぶ－」

場所：宮城蔵王ロイヤルホテル

時間	8月5日(月)	8月6日(火)	8月7日(水)	時間
7		朝 食	朝 食	7
—30			チェックアウト	30—
8			朝の祈り 学生：土田悠太	8
—30		朝の祈り 学生：長井太	朝の祈り 学生：土田悠太	30—
9		<みんなでストレッチ>	<みんなでストレッチ>	9
—30				30—
10		グループディスカッション 発表と質疑応答 出村みや子先生	【講演】「宮沢賢治の世界」 野村信先生	10
—30			アンケート記入	30—
11			閉会礼拝 学生：石川礎	11
—30		昼 食	昼 食 学生：岩淵風香、中井 愛	30—
12				12
13	13:15 学生集合 (土樋押川記念ホール)	こけしの里散策と見学	解散 蔵王出発、仙台へ (送迎バス)	13
—30	開会礼拝 学生：川村純平			30—
14				14
—30	【公開講演】 司会：出村みや子先生 「宮沢賢治の生涯：挫折と廻りの生 ～キリスト教との関係にも触れながら～」 講師：望月善次先生			30—
15				15
—30	ボランティアステーション見学 土樋出発 (送迎バス)	「宮沢賢治の足跡を訪ねて」 原田浩司先生		30—
16				16
—30	ホテル到着 オリエンテーション	DVD「銀河鉄道の夜」鑑賞 解説 野村信先生		30—
17				17
—30	夕 食 (バイキング) 学生：大滝萌、松浦成美	夕 食 (バイキング) 学生：加藤里菜、高橋千尋		30—
18				18
—30	親睦会 奥山絵利花、佐藤夏海、林裕登、佐藤拓弥	1. 証と讚美の時 原田浩司先生 大森愛、佐藤美月、菊地凌也、岩佐光		30—
19				19
—30	共に歌おう♪ 野村信先生	2. グループ祈祷 (自己紹介、好きな聖句)		30—
20				20
—30	夕べの祈り 佐々木哲夫先生	夕べの祈り 北博先生		30—
21				21

※プログラムが一部変更になることもあります。

「宮澤賢治の生涯：挫折と甦りの生 ～キリスト教との関係にも触れながら～」

岩手大学名誉教授、
特定非営利活動法人（NPO）石川啄木・宮澤賢治を研究し広める会理事長
望月 善次

御紹介を戴きました望月善次でございます。

これから御覧戴いております論題に沿って、1 時間 30 分ほどのお話を申し上げたいと思います。よろしく願い申し上げます。

以下のお話は、原則としてパワーポイント及びお配りした資料に沿って行いたいと思います。参考にした主な資料は、下記によっておりますし、賢治作品の引用につきましては特に断りのないものは『新校本宮澤賢治全集』（筑摩書房）によっております。

宮澤賢治＝『新校本宮澤賢治全集第 16 卷(下)補遺・資料 補遺・伝記資料篇』（筑摩書房、2001）。

堀尾青史『年譜宮澤賢治伝』（中央公論社、1991）。

川原仁左衛門編集並発行責任『宮沢賢治とその周辺』（1972、1973 改訂）。

なお、写真については、特に御留意ください。

本日それ等を提示できるのは宮澤家(林風舎)や藁谷収教授(岩手大学)の御厚意によるもので、他の人への貸与、コピー等を御遠慮戴くなどの慎重な取り扱いをお願い申し上げます。

冒頭の 2 枚の写真は、賢治が学んだ頃の盛岡高等農林学校の本館と藁谷教授制作の賢治像及びその賢治像に焦点を当てたものであります〔スライド 1～2〕。

前者は、第二次大戦敗戦後には取り壊しの指令も出て該当教授会でもそれを承認したと伝えられていますが、関係者の熱意によって保存され、現在は「重要文化材」となっております。また、後者は、賢治の弟さんで賢治の作品が世に出ることや今日の賢治像の彫琢に大きな役割を果たされた故宮澤清六氏が公認された唯一の像であります。と言うのは、宮澤清六氏は、賢治の具体的像については否定的でなかなか承諾はされずにいて、その晩年にこの藁谷教授のものを許諾されたのですが、その後間もなく御昇天されましたので、この像が「宮澤清六氏

公認の唯一の具象的賢治像」となっております。

盛岡高等農林学校の本館といい、この賢治像といい、いかにも賢治に相応しいエピソードと共に成り立っているなあというのが私の感じているところでもあります。

さて、具体的な宮澤賢治のお話に入る前に「二〇一一年三月十一日に起こった東日本大震災」へのお見舞いを申し上げたいと思います。

発生から既に二年五ヶ月がたとうとしておりますが、復興への道は半ばであると思います。ここ東北学院大学にも大きな影響があったとお聞きしております。

改めて、東日本大震災のお見舞いを申し上げたいと思います。

お亡くなりになられた方の御冥福をお祈りし、復興へと力を尽くしておられる方々の上をお祈り申し上げます。

本日は、賢治作品「グスコブドリの伝記」にちなんで愛称「カルボナード^{しまのこし}島越」と呼ばれていた三陸鉄道「島越駅」とその近くにあった賢治詩碑がどうなったかのみを御覧戴きたいと思ひます。

被災前の「島越駅」と被災後の同駅周辺であります〔スライド6～7〕。駅舎は被災により形を残さぬ状況であります。写真によって被災の状況の一端も想像して戴けるものと思ひます。

その駅舎近くにあった賢治の詩碑(「発動機船」)〔スライド8〕は、その巨大さ故に残っております。なお、この地域は田野畑村と呼ばれておりますが、同じ村内に「発動機船」の詩碑が三基あったのですが、他の二基の一つは流出し、もう一基は流出した後に発見され、元々建立された所とは異なった場所に保管されるというそれぞれ数奇な運命を辿っております。

さて、いよいよ論題に沿った具体的なお話を申し上げたいと思います。

先ず、本日の概要について申し上げます。

以下の六点であります〔スライド9〕。

- | |
|---------------------------|
| 0 東北学院との御縁 |
| 1 研究者としての望月の特徴 |
| 2 賢治の特徴私見5点 |
| 3 賢治の生涯私見～「七つの挫折と甦り」から見る～ |
| 4 賢治と宗教 |
| 5 宮澤賢治とキリスト教 |

0 東北学院との御縁

最初に東北学院との御縁について申し上げます。

御覧戴いておりますのは、本学発行の『押川方義とその時代』(p.146)からのものでありますが、本学を開かれた押川方義先生とその高弟の川合信水先生、お二人のものです〔スライド

11～13]。

押川先生 51 歳、川合先生 33 歳の時のものです[スライド 11]。

私は、学生時代から川合信水先生の薫陶を受けた者ですので、本学には格別の親しみの情を抱いております。内田又一郎編輯『押川方義先生聖書講義』（誠修学院編集部、昭和 6 年）ですが、これもまた学生時代にお教えを受けたものであります[スライド 12]。

更に、個人的なことを付け加えれば、義兄石田義光は本学高等部の卒業生ですし、暫く前までは、本学文学部の図書館学の教授としてお世話になり、研究室も平河内健治理事長のお近くであったと聞いております。

1 研究者としての望月の特徴

さて、宮澤賢治は非常に多面体な人ですので、それを語る人に依って様々な賢治像の彫琢が可能になりましょう。ですから、その語る人はどうした立場にあるかを明らかにすべきだというのが私の考えであります。

賢治研究者としての私の特徴はどうした点にあるか。

次の 4 点にあると考えております[スライド 14]。

1-1 ライフワークとしての石川啄木研究と宮澤賢治研究

第一は、石川啄木研究と宮澤賢治研究の両方に関わっているという点であります。

いずれも岩手を代表する文学者で、共に国民的・世界的存在だと存じますが、その二人共を本格的に研究しようとする研究者は意外と少ないのです。

私の把握しているところでは、日本で 5 人以内だと思っております。

ちなみに、私の場合を申し上げますと、啄木研究では、国際啄木学会という学会の会長(二期め)を務めておりますし、宮澤賢治研究では、宮澤賢治学会イーハトーブセンターの理事(副代表の時期もあり)を務めております。また、文字通り両者に関わるものとして「特定非営利活動法人(NPO)石川啄木・宮澤賢治を研究し広める会」をつい先ごろの 6 月末に立ち上げ、理事長となっております。

1-2 短歌創作体験からの出発(賢治短歌への関心)

第二は、研究の出発点が短歌創作であったという点です。

ですから、関心の重心は、伝記的なことより作品そのものにありますし、賢治の場合で言えば、賢治研究においては、どちらかと言えば関心の薄かった賢治の短歌に関心があることにもなります。

1-3 国際的視野

第三は、多少の国際的視野を持っている点だと思います。

賢治研究者の P.A. ジョージ博士(ネルー大学教授)との御縁から、インドには、ネルー大学やデリー大学を中心として、ここ十年ほど、ほぼ毎年出かけたおりますし、他に中国、

台湾、韓国などで講義・講演の体験を有しております。本日は、インド・ネルー大学と中国・清華大学の場合をご覧戴きたいと思います[スライド 16～19]。

1-4 賢治研究の契機：父政次郎への同情

賢治研究に本気で取り組もうとした契機につきましても、多くの賢治研究者と異なっていると思います。それは、賢治の父政次郎への同情から出発しているからであります。賢治について調べれば調べるほど、生活者としてはトンデモナイ人だと思わざるを得ません。その賢治を信じ、耐えて終生を全うさせた父政次郎が愛おしいのです。「賢治研究を本気にやろう。」と思った契機であります。

以上、賢治研究者としての望月の特徴4点を申し上げました。

こうした者のお話ですので、その積もりでお聞きくださればと存じます。

ところで、今日のお話の中で「こんなことはじつにまれです。」を何度か使わせてもらおうと考えております[スライド 14]。この言葉自体は賢治の「東岩手火山」[『春と修羅』(第一集)]という詩の一節で、素晴らしい条件の中での岩手山登山を形容した一節ですが、今日はこの言を何度か用いたいと思います。(「東岩手火山」の全体につきましては、配布資料を御覧ください。なお、童話「革トランク」でも使われております。)

こうしてみなさんとお会いでき、押川方義先生や川合信水先生、縁りの東北学院大学でお話できること自体が「こんなことはじつにまれです。」と言ってよいことだと存じます。

2 賢治の特徴私見5点

長い前置きになりましたが、より賢治の核心に迫りたいと思います。

先ず、私自身は、「賢治の生涯」をどのように見るかをお示したいと思います。

他の賢治研究者と比べて「どんな点が<まれ>か」を示すことにもなろうかと思えます。

以下五つの点から申し上げます[スライド 20]。

2-1 七つの挫折と甦りの生

第一は、賢治の生涯を「七つの挫折と甦り」(最後は遂に挫折のままで亡くなるのですが)と見る点であります。

2-2 文学者でもあった生

第二は、複合的存在としての賢治であります。

拙稿[望月善次「文学者でもあった生涯～『挫折からの甦り』が織りなす未完の人生～」、『月光』第2号(勉誠出版、2009)。]の文言に依りますと「文学者でもあった生涯」と言えようかと存じます。賢治が多くの文学者と違って、「理系」のトレーニングを受けた所謂「理系人間」であったことや、妙法蓮華経を中心とした宗教との格闘は、こうしたことと関連すると思えます。結論的に、賢治が見つめていた生は、通常の人とは異なっていたと言ってよろ

しいかと存じます。

そうした点から申し上げますと、あのタゴールの同時代人であるインドのニレンドロナト・チョコロボルティがその友人「オモルカンティ」を作品化した詩に通じるものがあるかと存じます。白田先生の訳によってお示ししたいと思います。

わたしの友だち、オモルカンティ

わたしたちは学校でともに学んだのである。

……わたしたちには教師志望のものもいたし、医者や弁護士をめざす者もいた。

オモルカンティはそうしたものには少しもなりたくなかった。

彼は日の光になりたかったのだ。

〔白田雅之訳、『詩と思想』275号(土曜美術社、2009) pp.35～36.〕〔スライド21〕

流石に賢治が求めたものが「日の光」であったと断言することは出来ませんが、多くの人々が求めたものとは異なったものを求めていたことは言えようかと存じます。

2-3 生前の評価と没後の評価のズレ

第三は、「生前の評価と没後の評価のズレ」という点であります。

多くの優れた芸術家の宿命とはいえ、賢治も生前の評価と没後(現在)における評価とは大きく異なっております。生前においては、賢治は、極少数の人を除いては知られぬ存在でありました。生前に受け取った原稿料が只一回の五円であったという事実もこうしたことの象徴的事例であったと存じます。

2-4 高い作品の質

第四は、賢治作品の高い質であります。この点につきましては、時間があれば、後ほど三点の詩を「朗読」する形でお示ししたいと存じます。

2-5 短歌の重要性

第五は、賢治作品における「短歌」の重要性であります。

賢治の文芸活動は、おそらく中学校(盛岡中学校)三年生の頃からの「短歌」から始まります。そして、盛岡高等農林学校を得業(卒業)する頃まで、その文芸活動のほとんどは「短歌」でありました。今日の賢治研究において「短歌」への注目は、必ずしも高いものではありませんが、亀井勝一郎の倉田百三「出家とその弟子」に対しての言「処女作に向かって成熟する」を取り上げるまでもなく、この初期の短歌作品への注視なくして正当な賢治研究はあり得ないというのが私の立場であります。

3 賢治の生涯私見 ～「七つの挫折と甦り」から見る～

では、次に賢治の「七つの挫折」について少し詳しく申し上げます〔スライド23〕。

3-1 第一の挫折＝上級学校進学を許されず：(旧制)中学校時代とその後の浪人時代(明治42年～大正3年＝13歳～18歳) [スライド27]。

第一の挫折は中学校(盛岡中学校)時代であります。(講演の実際においては、中学校以前の賢治にも触れ、賢治の家が「宗教の家」であったことにも触れておりましたが、その点については省略致します[スライド24～26]。)

賢治本人の証言もあるところですが、この時代の賢治は「やる気」がありません。

家の実験を握っていた祖父の「商売人には学問はいらない。」ということから上級学校進学の道が閉ざされていたからです。賢治は所謂「落ちこぼれ」の道を歩むことになります。この上級学校への道が閉ざされていた為、中学校自体の学業に身が入らなかった点においては石川啄木の場合も同様でありました(啄木の場合の要因は、経済的条件でありました。)[中学校時代のスライドは28～30]。

こうした賢治や啄木のエピソードを通して私が思うことは、「希望」というものがどんなに大切なものがあるかということでもあります。啄木や賢治ほどの人でも(この場合は上級学校への進学でありましたが)、「希望」の無さが彼等を追い込んだのです。

賢治の中学校4年次に寮生達と起こした「舎監追い出し事件」などもこの「希望」の無さにも微妙に絡んだのではないかと思います。

次の二つの短歌は中学校を卒業して、友人達が上級学校に進学するのを眺めながらの苦悩を表現したものであります。[作品末尾の番号は全集の「歌稿B」による。また「/」は改行の表示。]

学校の／希望はすてん／木々のみどり／弱きまなこにしみるころかな(86)
またひとり／はやしに来て鳩のなきまねし／かなしきちさき／百合の根を掘る(146)

なお、この中学校を卒業した直後、賢治は健康を害して岩手病院に入院するのですが、この看護婦に恋して、両親に結婚の申し出までしたと言われています。

その相手の人が具体的に誰であったかは、必ずしも明らかになっておりませんが、賢治の<恋の歌>は、なかなか良いのではないのかというのは、次の二首にも示されていると思います。

きみ恋ひて／くもくらき日を／あひつぎて／道化祭の山車は行きたり(174)
はだしにて／よるの線路をはせきたり／汽車に行き逢へり／その察明し(180)

全般的には、女性に対して慎重・臆病であり、具体的対象も隠そう隠そうとする賢治の態度は「恋する者」の基本的態度に通い、なかなかの相聞歌を作り出しているのではないかというのが私の見解であります。

いずれにしても、賢治の様子を見ていた父親などは「これは学校にでも上げるしかない。」と

思い「地元なら。」という思いもあったでしょう。賢治は盛岡高等農林学校への進学を許可されます[スライド 31 は入学願書写真]。

ここから、賢治の猛勉強が始まります。その結果、盛岡中学校の「落ちこぼれ」であった賢治は、盛岡高等農林学校(第二部)に首席で入学することになり、中学校時代の賢治を知る人々を驚かせるのです。賢治の生涯を左右した妙法蓮華経との出会いもこの頃のことであったと言われております。

生まれ変わった賢治は、盛岡高等農林学校を「優等生・旗手」などとして送ることになります。盛岡高等農林学校時代は、同人誌『アザリア』を共にした「保阪嘉内、小菅健吉、河本義行」などの「生涯の友」にも恵まれ、妙法蓮華経との関係も深め、心行くまでの学生時代を謳歌することになります。〔植物園での寮の同室者達とのスナップ、スキーに興ずる賢治、理系人間を示す化学実験室風景、『アザリア』4人組などの写真を御覧ください。〕[スライド 34～38]

こうした中から、短歌作品としては、私としては賢治の代表歌と呼んでよい「作品 332」なども生み出されるのです。天上と地上の対比、宇宙的視線、スケールの大きさ、宗教的示唆等賢治を代表する一首と言えましょう。

そら青く／観音は織る／ひかりのあや／ひとには／ちさき／まひるのそねみ(332)

この時期のことで一つだけ補っておきたいと思います。と言うのは、この時代の賢治には、まだ農業への関心は余りなかったという点であります。信頼する妹のトシや父政次郎への次のような手紙は、そのことを語っております。

私もまあ、大抵学校を出てからの仕事の見当もつきました。――

則ち木材の乾溜、製油、製薬の様な執れと云へば工業の様な仕事で充分自信もあり、又趣味もあることですから……〔宮澤トシ宛、No. 30、大正 6 年 1 月 16 日〕

只今の職業をそれに御換へ下されては如何に候や……砂金の売買とか諸工業原料の中央に対する売拵等の如き事ならば最私には都合宜しく御座候

〔宮澤政次郎宛、No. 73、大正 7 年 6 月 24 日。〕

先づ第一期に於ては／(一)飾石、宝石及印材の研磨／(二)金属部ヲ買入レテネクタ
イピン、カフスポタン、指環等ノ製造／(三)鍍金／(四)(砂金ヲ地方ヨリ買入、債
券ヲ市内ヨリ買入)……二期の仕事則ち以上の外に／(五)鉱物合成(宝石人造)／(六)
宝石飾石改造……及右副業として／(七)絵具製造。／を始め度と存じ候。

〔宮澤政次郎宛、No. 135、大正 8 年 1 月 31 日。〕

3-2 挫折第二：体調異変と帰宅〔大正7年＝22歳〕

親友保阪嘉内の退学事件なども起こりますが、とにかく賢治は盛岡高等農林学校を卒業します。

そして、父親の希望を入れて研究生として盛岡高等農林学校に残ることになるのです。当時は丁度第一次世界大戦の時に当たっておりまして、大切な長男の徴兵検査を何とか延ばしたい父親とそれを潔しとしない賢治のやり取りもあったのですが結局研究生としては残る、しかし、徴兵検査は延ばさないということに落ち着くのです。親からすれば「何とも扱いにくく、カワイクナイ賢治」が見られ、先に申し上げた私の父政次郎への同情もこうしたところから生まれています。

このような曲折を経た研究生でしたが、その数ヶ月後に結核の兆候とも言うべきものが出て、賢治は、実質的に盛岡高等農林学校から離れるのです。賢治第二の挫折です。

「今日も今日とて、宮沢氏は肋膜にて実家に帰つた。私のいのちもあと十五年はあるまいと淋しい限りなく淋しいひびきを持つた」というのは、小菅健吉が保阪嘉内に当てた葉書〔大正7年7月4日〕の一節ですが、賢治の衝撃がどれほど大きかったかを示していると思います。

3-3 挫折第三：父との対立を経て家出上京(宗教団体国柱会)と帰郷(花巻)／花巻農学校教師〔大正10年＝25歳〕

家に帰って家業の質屋の店先に座ったりする賢治は、悶々とした毎日を送ります。その悩みがどんなに深いものであったかは、賢治の保阪嘉内宛の書簡の文言を繋ぐとそのまま短歌が出来るほどであります。拙作の腰折れを御覧戴ください。(下線部は賢治の文言。)

ごろつき、詐欺師、うそつき、かたりの隊長 — 宮澤賢治、大正七年～八年—

三木与志夫(望月善次)

酒飲むも酒を飲まぬも悲しくて<宮澤賢治>の私である

流し目の行方にハツとなりし故、今日は書けない<友への手紙>

私は馬鹿で弱くてとり所 なく呆れはてた 者であります

〔書簡 29：83 (以下共『友への手紙』番号「：」=『新校本宮澤賢治全集』番号)、大正7年7月25日〕

私は正にきちがい、幽霊が時々私を操っている

〔書簡 41：154、大正8年推定〕

ならずものごろつき詐欺師ねじけもの、うそつきかたりの隊長である。

ごまのはいの 兄弟分で前科なお無数で弱虫意気地なしました

しかもなおずるものわるもののみならず偽善会なる会長である

〔3首いずれも書簡 44：152、大正8年推定〕

3-4 挫折第四：保阪嘉内への折伏の失敗〔大正10年＝25歳〕

こうした悶々とした日々を送っていた賢治は、宗教的にも一層妙法蓮華經への没頭を深くし、浄土真宗を信ずる父政次郎に改宗を迫るなど激しく対立します。寒行の為、花巻の町を団扇太鼓を叩いて廻ったりもするのですが、妙法蓮華經を奉ずる在家集団である田中智学の国柱会に入信し、遂に無断での上京の挙に出ます(大正10年1月23日)。

なお、国柱会と賢治との関係には分かりにくいところもあり、現在の私の関心の一つですが、今日のところは踏み込むことを差し控えたいと思います。

賢治が依った「赤い経巻」の島地大等『漢和対照 妙法華經』(明治書院、大正3年：1914)と賢治が終生離さなかった国柱会の御本尊である文字曼荼羅を御覧戴ください〔スライド70 & 72〕。

また、この前後、親友の保阪嘉内を熱烈に妙法蓮華經・国柱会に誘います。

保阪嘉内への折伏の結果は失敗に終わります。(実はこの時期は、次のトシの昇天に至る経過と時間的には重なる部分も少なくありません。どうした区分にするかは、私自身、迷うところもあるのですが、)これを第四の挫折としたいと思います。

3-5 挫折第五：トシ昇天〔大正11年＝26歳〕

時間的には少し戻ることになりますが、妹トシとの関わりについて補足しながら、第五の挫折の「トシ昇天」に移りたいと思います。賢治とトシは単なる兄妹の関係を越えて(家族で唯一人「国柱会」に入会するなど)精神的な交流があった間柄ですが、成人した後の深い関わりは、大正7年12月に、日本女子大卒業目前のトシを看病したことでしょう。通称「永楽病院」(主治医二木謙三)に入院したトシを母イチと共に訪れ、翌大正8年の二月に退院するまで看病するのです。(静養して花巻に帰るのは3月)

その年の夏を花巻・西鉛温泉で静養したトシは、感謝の思いもあってか、賢治の短歌原稿を整理するのですが、これが後の「歌稿A」と呼ばれるものの元になるのです。(この「歌稿A」に賢治が手を入れて「歌稿B」が成立しますが、「歌稿A」・「歌稿B」は賢治短歌の大きな部分を占めるのです。)

大正9年の9月トシは母校花巻高等女学校の教師心得となって英語や家事を教えることになりますが、大正10年8月に咯血したトシは、9月12日に花巻高等女学校を退職します。(トシの咯血を聞いて、上京して国柱会に通っていた賢治は花巻に戻って来ます。)

病気のトシは下根子桜の別宅に移されたり(7月)、実家に戻されたりしますが(11月19日)、帰宅後約一週間後の11月27日に昇天するのです。

第五の挫折と呼んでよいと思います。その衝撃がいかに深いものであったかは「永訣の朝」、「松の針」、「無声慟哭」の「三部作」からも窺えるところです。

3-6 挫折第六：なれぬ「本統の百姓」：羅須地人協会時代

大正10年の12月、賢治は、稗貫農学校教諭となります。(稗貫農学校は、大正12年5月に花巻農学校となります。)賢治は、退職する大正15年3月まで充実した時間を過ごします。この期間が恵まれた時であったことは、賢治自身が「この四カ年はわたくしにとって／じつに愉快的な明るいものでありました。」[「序」、『春と修羅』(第二集)]と述べているところでもありますし、生前出版の二冊の著作『春と修羅』(第一集)[大正13年4月]と『注文の多い料理店』[同年、12月]の発行もこの時期のことでした。

しかし、賢治は、教え子に「百姓になれ。」と言いながら、自分は安定した農学校の教師の地位にいることに耐えられなくなります。(こうした賢治の感じ方の評価は分かれるのではないかと思います、とにかく賢治はそう感じたのです。)

退職して「本統の百姓」になるべく羅須地人協会の活動に入ります。[大正15年=30歳]「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」の文言で知られる「農民芸術概論」の「岩手国民高等学校」での活動も退職の直前のことでした[スライド55～56]。

この羅須地人協会時代については、独居であるのか(千葉恭との同居問題)などを巡り、以下のように分けることが適切だとする鈴木守説[『羅須地人協会の真実』(友藍書房、2013)]のあることも紹介しておきましょう。

下根子時代(大正15年4月1日～昭和3年8月10日)

狭義の羅須地人協会時代(大正15年11月29日～昭和2年4月1日)

*千葉恭との同居(独居自炊期間の限定)

スライドで見て戴くのは、現在は岩手県立花巻農業高校に移転されている羅須地人協会の建物と近年賢治の母方の家系に連なる宮澤啓祐氏(花巻市商工会議所会頭)をモデルとした賢治像であります[スライド58]。

このように意気込んで羅須地人協会の活動を行った賢治でしたが、農民と一緒になれないこと、つまり「本統の百姓」になどなれないことを骨の髄まで思い知らされることとなります。「本統の百姓」への決意や「本統の百姓」になどなれないことは次の詩の中に結実しておりますので、朗読したいと思います。

七〇九 春

一九二六、五、二、

陽が照って鳥が啼き
あちこちの櫓の林も、

けむるとき

ぎちぎちと鳴る 汚ない掌を、
おれはこれからもつことになる

一〇四二 [同心町の夜あけがた]

一九二七、四、二一、

(□は、賢治自身は題名をつけておらず、便宜的に作品一行めを題名としていることを示しています。)

同心町の夜あけがた

一列の淡い電燈

春めいた浅葱いろしたもやのなかから

ぼんやりけぶる東のそらの

海泡石のこっちの方を

馬をひいてわたくしにならび

町をさしてあるきながら

程吉はまた横眼でみる

わたくしのレアカーのなかの

青い雪菜が原因ならば

それは一種の嫉視であるが

乾いて軽く明日は消える

切りとってきた六本の

ヒアシンスの穂が原因ならば

それもなかばは嫉視であって

わたくしはそれを作らなければそれで済む

どんな奇怪な考が

わたくしにあるかをはかりかねて

さういふふうに見るならば

それは懼れて見るといふ

わたくしはもっと明らかに物を云ひ

あたり前にしばらく行動すれば

間もなくそれは消えるであらう

われわれ学校を出て来たもの

われわれ町に育ったもの
われわれ月給をとったことのあるもの
それ全体への疑ひや
漠然とした反感ならば
容易にこれは抜き得ない
 向ふの坂の下り口で
 犬が三疋じゃれてゐる
 子供が一人ぼろっと出る
 あすこまで行けば
 あのこどもが
 わたくしのヒアシンスの花を
 呉れ呉れといって叫ぶのは
 いつもの朝の恒例である
見給へ新らしい伯林青を
じぶんでこてこて塗りあげて
置きすてられたその屋台店の主人は
あの胡桃の木の枝をひろげる
裏の小さな石屋根の下で
これからねむるのでないか

賢治第六の挫折であるこの挫折は痛切なものであったと思います。

しかし、この体験を経て、賢治の思いは一層深いものになって行ったのだというのが私の解釈であります。そうした意味では、羅須地人協会以前は、「賢治のロマン主義の時代」、羅須地人協会以後を「賢治のリアリズムの時代」と呼ぶことも可能であろうかと思ひます。

この挫折の痛切さは、賢治の健康も損なうものでもあったというのが私の解釈です。

こうした痛切な体験から、私自身は、賢治作品の頂点をなすと考えます「疾中」が生み出されたのだということもできようかと考えております。

ここでは、その「疾中」から「眼にて云ふ」と〔丁丁丁丁〕の二つの詩を御紹介したいと思います。

眼にて云ふ

だめでせう

とまりませんな
がぶがぶ湧いてゐるですからな
ゆふべからねむらず血も出つづけなもんですから
そこらは青くしんしんとして
どうも間もなく死にさうです
けれどもなんといゝ風でせう
もう清明が近いので
あんなに青ぞらからもりがあって湧くやうに
きれいな風が来るですな
もみぢの嫩芽と毛のやうな花に
秋草のやうな波をたて
焼痕のある藺草のむしろも青いです
あなたは医学会のお帰りか何かは知りませんが
黒いフロックコートを召して
こんなに本気にいろいろ手あてもしていたゞけば
これで死んでもまづは文句もありません
血がでてゐるにかゝはらず
こんなにのんきで苦しくないのは
魂魄なかばからだをはなれたのですかな
たゞどうも血のために
それを云へないがひどいです
あなたの方からみたらぬぶんさんたるけしきでせうが
わたくしから見えるのは
やっぱりきれいな青ぞらと
すきとほった風ばかりです

〔丁丁丁丁〕
丁丁丁丁丁
丁丁丁丁丁
叩きつけられてゐる 丁
叩きつけられてゐる 丁
藻でまっくらな 丁丁丁
塩の海 丁丁丁丁丁

熱 丁 丁 丁 丁 丁
熱 熱 丁 丁 丁
(尊 々 殺 々 殺
殺 々 尊 々 々
尊 々 殺 々 殺
殺 々 尊 々 尊)

ゲニイめたうとう本音を出した
やってみろ 丁 丁 丁
きさまなんかにまけるかよ
何か大きな鳥の影
ふう 丁 丁 丁
海は青じろく明け 丁
もうもうあがる蒸気のなかに
香ばしく息づいて泛ぶ
大きな花の蕾がある

3-7 東挫折第七：北碎石工場技師としての再起と体調の異変〔昭和5年＝35歳〕

羅須地人協会の挫折を潜った賢治は、体力が回復すると東北碎石工場技師として再起を図ります。（「技師」と言っても内実は「営業マン」のような仕事でした。）この拳については、「死に急いだ」とも「まるで自殺行為だ」と言う人もいますが、本日は、賢治としては止むに止まれぬ思いであったろうということのみをお話したいと思います。

いずれにしても、賢治の最後に関わった仕事が、賢治にとっては不得意なものだと言って良い「営業」に近い仕事であったことは、正直痛ましい気持ち抑えかねますが、とにかくその道を賢治は選んだのです。そして東京への出張の最中に、前の座席の人が列車の窓を開け放しにしたことが直接の引き金となって体調を壊し、遂に立ち上がることはできませんでした。

賢治第七の挫折となるのですが、この挫折は蘇ることなくその人生が終わることになるのです。

あの有名な〔雨ニモマケズ〕もこの期間の作物であります。

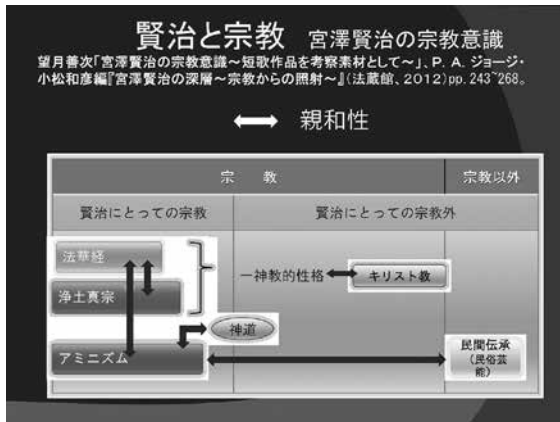
もっとも賢治はこの〔雨ニモマケズ〕を公表しようとする思いは全くありませんでした。

死後、思わぬことから発見され、今日では賢治の代表作のようにいう人もいるわけですが、こんなことを賢治が知ったら驚いて気を失ってしまうかも知れませんね。

〔雨ニモマケズ〕と絶唱短歌二首を御覧に入れましょう〔スライド 62～66 & 68〕。

以上、賢治の生涯を「七つの挫折と蘇り」という観点から概観しましたが、最後に「賢治とキリスト教」の関係について申し上げたいと思います。

キリスト教に入る前に、先ず、私自身、賢治の宗教をどう考えるかについて申し上げます。私の賢治の宗教観を整理した図を御覧戴ください[スライド 69]。



この図に示したようにキリスト教は賢治にとって「宗教(信仰)」ではなかったというのが私の考えであります。(例えば、次の拙稿なども御覧戴ください。)

望月善次「宮澤賢治の宗教意識～短歌作品を考察素材として～」、P.A. ジョージ・小松和彦編『宮澤賢治の深層～宗教からの照射～』(法蔵館、2012) pp.243~268。

大きくは二つほどの補足を加えましょう。

1 根底にあったアニミズム的思考

賢治の根底には、多くの日本人のようにアニミズム的思考があったというのが、現在における私の解釈であります。そのため、全体的には、他の宗教等に関しても基本的には、非排斥的・許容的に働いたのだと考えるのであります。良く知られている父の浄土真宗との対立、保阪嘉内への妙法蓮華経、国柱会への勧誘はむしろ例外的なものではなかったかと考えるのであります。

2 法華経(日蓮宗)の一神教的側面とお題目

これは下記の正木晃氏などに教えられたことですが、当時の仏教の中では、法華経(日蓮宗)は浄土真宗(賢治の家の宗教)と並んで一神教的側面を有していたということであります。だから、明治時代当初の仏教排斥運動にも、この二つは対応できたというのです。

一つの仏を専一に信仰する点でも[浄土真宗(阿弥陀如来)、日蓮宗(釈迦如来)]、両者は共通していたそうです。

また、お題目重視の点でも、妙法蓮華経・浄土真宗の両者[浄土真宗(「南無阿弥陀仏」)、日

蓮宗(「南無妙法蓮華」)は共通性を有していたのです。(私見では、リズム的には7音のみの南無阿弥陀仏(ナムアマダブツ=7音)より5音7音「南無妙法蓮華(ナムミョウ ホウレンゲキョウ)」の方がリズムに乗りやすいと考えております。)

いずれにしても、本格的な考察には下記などを参照してください。

正木晃「なぜ、宮澤賢治は浄土真宗から日蓮宗へ改宗したのか?」、P.A. ジョージ・小松和彦編『宮澤賢治の深層～宗教からの照射』(法蔵館、2012) pp.220～242

さて、賢治とキリスト教について三つほどのことを申し上げます。

1 「意匠」及び「(欧米文化への)憧れ」であった賢治のキリスト教

先にも申し上げたように、賢治にとってキリスト教は「宗教(信仰)」ではありません。(この場合の「宗教(信仰)」とは、単なる知識ではなく、人格の全てを賭ける存在であることを意味します。)賢治のキリスト教への関心は、狭義の「宗教」ではなく「意匠」及び「(欧米文化への)憧れ」であったと言えます。

2 一神教的親和性

これも先に申し上げましたように、妙法蓮華経(日蓮)という一神教的仏教を信じた賢治には、そうした面からもキリスト教への親和性はあったのです。

3 教会訪問とキリスト者との親交

狭義の「宗教(信仰)」ではありませんでしたが、賢治には、キリスト教と接する場と人がありました。カソリック、プロテスタントの両方の教会を訪問したり、親しい牧師や神父の方もおられたのです。

タッピング牧師(1857～1942)★盛岡浸礼教会(1908＝明治41～1920＝大正9)
プジェー神父(1969～1943)★盛岡天主公教会(1902＝明治35～1922＝大正11)

二人に共通する短歌もあります。

プジェー師や／さては浸礼教会の／タッピング氏に／絵など送らん(280)

また、花巻には優れたキリスト教者も方がおられました。

斎藤宗次郎(内村鑑三門下、1977～1986)はその代表的人物ですし、同じく内村鑑三門下の照井真臣乳(1873～1949)は小学校5年時の担任。その子息の謹二郎(1906～2002)は、賢治の花巻農学校時代の教え子で、賢治顕彰にも大きな働きをすることになるのです。

「銀河鉄道の夜」における讚美歌320番「主よみもとに」の採用は、こうした賢治のキリスト教体験と結びついたものでしょう。

タッピング牧師やプジェー神父に関係する作品も紹介しておきましょう。

また、プジェー神父に関わって当時の教会が現在は盛岡大学附属高等学校の一角に譲渡・移転されておりますのでそれも紹介しておきましょう〔スライド 79〕。

タッピング牧師に関する作品

「岩手公園」(文語詩稿 一百篇)

「かなた」と老いしタピングは、
杖をはるかにゆびさせど、

東はるかに散乱の、
さびしき銀は声もなし。

なみなす丘はぼうぼうと、
青きりんごの色に暮れ、

大学生のタピングは、
口笛軽く吹きにけり。

老いたるミセスタッピング、
「^{こぞ}去年なが姉はこゝにして、

中学生の一組に、
花のことばを教へしか。」

^{アークライト}弧光燈にめくるめき、
羽虫の群のあつまりつ、

川と銀行木のみどり、
まちはしづかにたそがるゝ。

プジェー神父に関わる作品

「浮世絵」(文語詩稿 一百篇)

ましろなる 塔の地階に、 さくらばなけむりかざせば、

やるせなみプジェー神父は、 とりいでぬにせの赤富士。

青瓊玉かゞやく^み天に、 れいろうの瞳をこらし、

これはこれ悪業^{あく}乎^か栄光^{かきかえ}乎、 かぎすます北斎の雪

では、本日の纏めを申し上げます。

賢治の生涯は、世間的に言えば「成功」した生涯ではありませんでした。

「農民芸術概論綱要」や羅須地人協会の後の彼を待っていたのも手ひどい「挫折」であったことは既に申しあげました。

文学的に言えば、その驚くべき力量と比べても本日の「七つの挫折」を含む「不遇の生涯」でありました。

しかし、賢治はその彼の不遇の生涯、挫折の生涯の中でも書き続け、生き続け、その懸命さが、高い文学的結実と共に、私達の心を打つのだと思います。

長時間の御清聴ありがとうございました。

みなさんと御縁がありお話ができたことは、繰り返すようですが「こんなことはじつにまれです」に相当すると思います。

機会がありましたら、またどこかで宮澤賢治の名とともにお会いできるなら幸いです。

ありがとうございました。

[以上は、東北学院大学第39回サマー・カレッジ<公開講演>として行った表題に掲げた講演〔(2013.8.5(月)14:00～15:30/東北学院大学土樋キャンパス8号館)に加筆したものである。]

以上

2013. 8. 5(月)14:00~15:30
 第39回サマー・カレッジ講演
 宮澤賢治の生涯:挫折と甦りの生~キリスト教との関係にも触れながら~
 望月善次(岩手大学名誉教授)

賢治石像(藁谷収作)【原本の息】
 (http://www.page.sannet.ne.jp/yyu_iwata/iwatodaisibutami.html)による



1



賢治石像(藁谷収作)
 (<http://www.ihatov.cc/monument/096.html>)

2

本文、写真等出典

特に断りのないものは『新校本宮澤賢治全集』(筑摩書房)によっている。特に、写真は下記に多くをよっている。また、それを提示できるのは宮澤家や藁谷収教授の御厚意によるものである。扱いについては慎重にして戴きたい。

(他人への貸与、コピー等は御遠慮ください。)

宮澤賢治=『新校本宮澤賢治全集第16巻(下)補遺・資料 補遺・伝記資料篇』(筑摩書房、2001)。/堀尾青史『年譜宮澤賢治伝』(中央公論社、1991)/川原仁左エ門編集並発行責任『宮澤賢治とその周辺』(1972, 1973改訂 *以下『周辺』)。

3

2013. 8. 5(月)14:00~15:30
 第39回サマー・カレッジ講演



宮澤賢治の生涯:挫折と甦りの生~キリスト教との関係にも触れながら~
 望月善次(岩手大学名誉教授)

4

東日本大震災お見舞い

東日本大震災のお見舞いを申し上げます。

お亡くなりになられた方の御冥福をお祈りし、復興へと力を尽くしておられる方の上をお祈り致します。

5

島越駅旧景
<http://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/e/e6/Shimanokoshi-Station.jpg>



6

【『日本鉄道地図記録帳』
http://www.shinchosha.co.jp/railmap/blog/2011/06/13.html】



7

【『日本鉄道地図記録帳』
http://www.shinchosha.co.jp/railmap/blog/2011/06/13.html】

取材時、がれきの整理が進んでいたようで、駅周辺はコンクリートの残骸が広範囲に散らばっているのが目についた。



8

本日の概要

- 0 東北学院との御縁
- 1 研究者としての望月の特徴
- 2 賢治の特徴私見5点
- 3 賢治の生涯私見
～「七つの挫折と甦り」から見る～
- 4 賢治と宗教
- 5 宮澤賢治とキリスト教

9

0 東北学院との御縁

- 1 押川方義先生と川合信水先生
→ お二人の写真〔『押川方義とその時代』p.146。〕
- 2 『押川方義先生聖書講義』
→ 写真
- 3 『押川方義とその時代』
→ 写真
- 4 義兄石田義光〔高校&文学部歴史学科教授〕

10

押川方義先生と川合信水先生（押川51歳、川合33歳）
1900（明治33）〔『押川方義とその時代』p.146。〕



11

内田又一郎編輯『押川方義先生聖書講義』（誠修学院編輯部、昭和6年）。



12

河西晃祐監修『押川方義とその時代』(東北学院、2013.)



13

1/5 研究者としての望月の特徴

→ 宮澤賢治は複合的存在なので、論者は自らの立場を明示すべきである。

- 1 ライフワークとしての
石川啄木研究(国際啄木学会会長)
と宮澤賢治研究(宮沢賢治学会理事、元副代表)の並行
／特定非営利活動法人(NPO)石川啄木・宮澤賢治を研究し広める会 理事長
- 2 創作体験からの出発(賢治短歌への関心)
- 3 国際的視野(特に、インド、中国等)
- 4 賢治研究の契機: 父政次郎への同情

14

今日のキーワード

「こんなことはじつにまれです。」

(「東岩手火山」)

* 別紙配布資料 ①参照

15

ゲストハウス屋上からのネルー大学(JNU)



16

ネルー大学の学生と



17

清華大学集中講義(2009)



18

清華大学の象徴の一つである
大礼堂(講堂)



19

2/5 賢治の生涯私見5点〜どんな点がまれか〜

- 1 七つの挫折と甦りの生
- 2 文学者でもあった生（複合的存在：宗教との格闘、理系人間）
望月善次「文学者でもあった生涯〜『挫折からの甦り』が織りなす未完の人生〜」、『月光』第2号（勉誠出版、2009）。
*「オモルカンティ」
- 3 生前の評価と没後の評価のズレ
- 4 高い作品の質 *後述
- 5 短歌の重要性

20

「オモルカンティ」
ニレンドロナト・チョクロボルティ

わたしの友だち、オモルカンティ
わたしたちは学校でともに学んだのである。
.....わたしたちには教師志望のものもいたし、医者や弁護士をめざす者もいた。
オモルカンティはそうしたものには少しもなりたくなかった
彼は日の光になりたかったのだ。

〔白田雅之
『詩と思想』275号（土曜美術社、2009）
pp.35〜36。〕

21

3/5 賢治の生涯私見〜「七つの挫折」から見る〜

- 1 (旧制) 中学校時代とその後の浪人時代
〔明治42年〜大正3年=13歳〜18歳〕
- 2 体調異変と帰宅〔大正7年=22歳〕
- 3 父との対立を経て家出上京（宗教団体国柱会）と帰郷（花巻）／花巻農学校教師〔大正10年=25歳〕
- 4 保阪嘉内への折伏失敗〔大正10年=25歳〕
- 5 トシ昇天〔大正11年=26歳〕
- 6 「本統の百姓」へ：羅須地人協会時代
〔大正15年=30歳〕
下根子時代（大正15年4月1日〜昭和3年8月10日）
狭義の羅須地人協会時代（大正15年11月29日〜昭和2年4月1日） * 鈴木守『羅須地人協会の真実』（友誼書房、2013） ● 千葉義との同居（独居自炊期間の限定）
- 7 東北砕石工場技師としての再起と体調の異変
〔昭和5年=35歳〕

22

七つの挫折

- 1 (旧制) 中学校時代とその後の浪人時代
〔明治42年〜大正3年=13歳〜18歳〕
- 2 体調異変と帰宅〔大正7年=22歳〕
- 3 父との対立を経て家出上京（宗教団体国柱会）と帰郷（花巻）
／花巻農学校教師〔大正10年=25歳〕
- 4 保阪嘉内への折伏失敗（国柱会）〔大正10年=25歳〕
- 5 トシ昇天〔大正11年=26歳〕
- 6 「本統の百姓」へ：羅須地人協会時代
〔大正15年=30歳〕
- 7 東北砕石工場技師としての再起と体調の異変
〔昭和5年=35歳〕

23

5歳の賢治と妹トシ



24

宗教の家：仏教講習会



25

仏教講習会時の宮澤家縁者



26

挫折第1期

1 (旧制) 中学校時代とその後の浪人時代
〔明治42年～大正3年
= 13歳～18歳〕

★祖父・父の
商売人学業不要論

27

岩手山登山の賢治(第一期)



28

寮生時代(?)の賢治



29

中学校卒業後の進学できぬ苦悩

- 学校の／希望はすてん／木々のみどり／弱き
まなこにしみるころかな (86)
- またひとり／はやしに来て鳩のなきまねし／
かなしきちさき／百合の根を掘る (146)
- <恋の歌> ＊きみ恋ひて／くもくらき日を／あひつぎて／道
化祭の山車は行きたり (174)
- ＊はだしにて／よるの線路をはせきたり／汽車に行き逢へり
／その窓明し (180)
- <宇宙からの目> ＊そらに居て／地球のほのほかなしむと／
地球の人のしるやしらずや (160)
- ＊<秀歌> そら青く／観音は織る／ひかりのあや／ひとには
／ちさき／まひるのそねみ (332)

30

大正4年2月26日盛岡高等農林学校入学願書用



31

甦る賢治(第一期):大正4年4月盛岡高等農林学校農学科第二部入学生



32

賢治の農業的技術と農業への関心

○ 不器用の方では相当なもので、草鞋を作れば仁王様の草鞋かと笑われ、農作業に関する限り、私と共に下手糞の双璧とされた。

〔中西弘成「いが栗頭の賢治」、『周辺』p.84.〕

○ 賢さんは、学校で一番苦手は鋤をとつて畑を耕起する事であつた。勢(ママ)一ぱいやるのだが、経験者(農学校出の級友)の半分も能率が挙らない。しかも出来上がりは一面の凸凹で播種することが出来ない。或日(一年生のとき)耕起の各人割当があつた。見るに見かねた河上和吉君が自分の担当を終へた後、賢治さんのを手伝つて立派に仕上げてくれた。先生からほめられた事がある。

〔高橋秀松「賢さん」、『周辺』p.122.〕

33

甦る賢治(第一期):同室者と共に



34

大正5年春～初夏(寮同室生)



35

『アザリア』の4人



36

スキーをする賢治



37

サイエンティスト賢治：化学実験室



38

大正5年秋(?) (一時の卒業写真)



39

大正6年6月9日(校友会委員)



40

大正6年8月～9月8(江刺郡地質調査)



41

大正7年3月(卒業記念)



42

大正7年3月(卒業記念)



43

盛岡高等農林学校卒業時近辺の職業的関心

- 私もまあ、大抵学校を出てからの仕事の見当もつきました。——
則ち木材の乾溜、製油、製薬の様な執れと云へば工業の様な仕事で充分自信もあり、又趣味もあることですから……
〔宮澤トシ宛、№30、大正6年1月16日〕
- 只今の職業をそれに御換へ下されては如何に候や……砂金の売買とか諸工業原料の中央に対する売却等の如き事ならば最私には都合宜しく御座候
〔宮澤政次郎宛、№73、大正7年6月24日。〕
- 先づ第一期に於ては、(一)飾石、宝石及印材の研磨、(二)金属部ヲ買入レテネクタイピン、カフスポタン、指環等ノ製造、(三)鍍金、(四)砂金ヲ地方ヨリ買入、債券ヲ市内ヨリ買入、……二期の仕事則ち以上の外に、(五)鉱物合成(宝石人造)、(六)宝石飾石改造……及右副業として、(七)絵具製造、を始め度と存じ候。
〔宮澤政次郎宛、№135、大正8年1月31日。〕

44

挫折第2期～5期

* 小倉豊文によれば、島地大等『漢和対照妙法蓮華教』との真の出会いには盛岡高等農林学校入学後か

2 盛岡高等農林学校得業(研究生)後の体調異変と帰宅〔大正7年=22歳〕

★ 結核の兆候

3 父との対立を経て家出上京(宗教団体国柱会)と帰郷(花巻)〔大正10年=25歳〕/花巻農学校教諭

* 上京前や花巻農学校時代の齋藤宗次郎(内村鑑三の高弟1877~1986)との交流。

4 保阪嘉内への折伏(国会会)失敗

5 妹トシ昇天〔大正11年=26歳〕

45

望月短歌作品=盛岡高等農林卒業後の苦悩

宮澤賢治記念短歌会〔2009.5.16(土)9:00~(百年記念館)/『厚生保護みちのく』第657号(2009.10)。〕

ごろつき、詐欺師、うそつき、かたりの隊長

~ 宮澤賢治、大正七年~八年 ~ 三木与志夫(望月善次)

酒飲むも酒を飲まぬも悲しくて<宮澤賢治>の私である

流し目の行方にハツとなりし故、今日は書けない<友への手紙>

私は馬鹿で弱くてとり所なく呆れはてた者であります

〔書簡29:83(以下共『友への手紙』番号「:」=『新校不宮澤賢治全集』番号)、大正7年7月26日〕

私は正にきちがい、幽霊が時々私を操っている

〔書簡41:154、

大正8年推定〕

ならずものごろつき詐欺師ねじけもの、うそつきかたりの隊長である。

ごまのはいの兄弟分で前科なお無数で頭虫意気地なしました

しかもなおずるものわるもののみならず偽善会なる会長である

〔3首いずれも書簡44:1

52、大正8年推定〕

46

充実した農学校時代

- ✦ わたくしは毎日
- ✦ 鳥のやうに教室でうたってくらし
- ✦ 誓って云ふが
- ✦ わたくしはこの仕事で
- ✦ 疲れをおぼえたことはない

✦ 〔「生徒諸君に寄せる」断章一〕

47

花巻農学校の同僚 (二期、三期、四期を経て)



48

賢治の肖像



49

ポーズをとる賢治



50

授業を模す賢治



51

詩集『春と修羅』



52

童話集『注文の多い料理店』



53

「農民芸術概論綱要」等 三部作の位置

- 「農民芸術概論」
 - 「農民芸術概論綱要」
 - 「農民芸術の興隆」（1926, 1~6?）「畢竟ここには宮沢賢治一九二六年のその考があるのみである。」〔「農民芸術論綱要」末尾文〕
 - 賢治唯一の纏まった（農民）芸術論
 - 当時の潮流の影響（吉江喬松、室伏高信）
- 〔原子朗編『宮沢賢治語彙辞典』（東京書籍、1989）

54

農民芸術概論

- 序論
 - 農民芸術の興隆
 - 農民芸術の本質
 - 農民芸術の分野
 - 農民芸術の諸主義
 - 農民芸術の製作
 - 農民芸術の産者
 - 農民芸術の批評
 - 農民芸術の総合
 - 結論
- われらに要るものは
銀河を包む透明な意志
巨きな力と熱
である

55

「農民芸術概論綱要」

序論

.....われらはいっしょにこれから何を論ずるか.....

おれたちはみな農民である ずあぶん忙がしく
仕事もつらい／もっと明るく生き生きと生活をす
る道を見付けたい／われらの古い師父たちの中
にはさういふ人も応々あった／近代科学の実証と求
道者たちの実験とわれらの直観の一致に於て論じ
たい

世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸
福はあり得ない。

56

挫折第6期

「本統の百姓」へ
：羅須地人協会時代
〔大正15年＝30歳〕

→ 「〔同心町のよあけがた〕」
＊ 別紙配布②資料

57



58

頂点の一つ「疾中」30編

昭和3年（1928）～1930（昭和5年）
の30編を「疾中」とする。

＊別紙配布資料 ③参照。

<参考>

昭和3年（1928）

黄瀛（こうえい／「銅鑼」同人、中国詩人）来訪。

鈴木東蔵（東北碎石工場主）来訪。→第七期

（昭和5年（1930）4月12日）

佐々木喜善来訪。

59

挫折第7期

7 東北碎石工場技師としての
再起と体調の異変
〔昭和5年＝35歳〕

★ 「〔雨ニモマケズ〕」

★ 絶筆

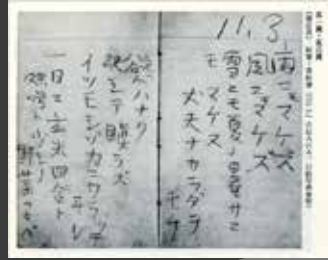
60

東北砕石工場・技師の賢治(七期)

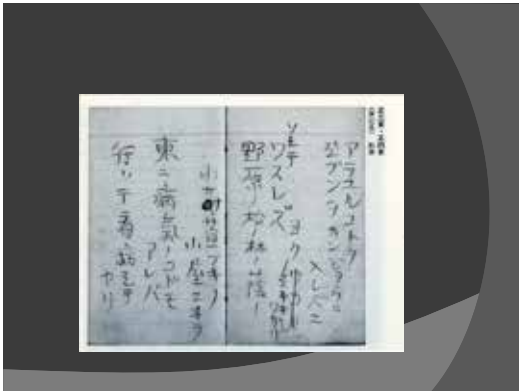


61

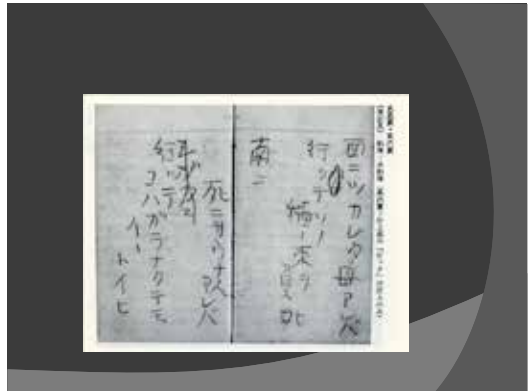
〔雨ニモマケズ〕1



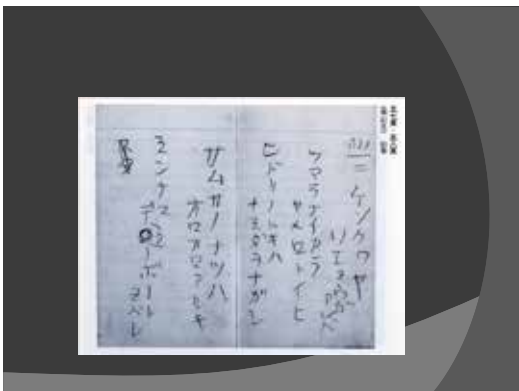
62



63



64



65

〔雨ニモマケズ〕2



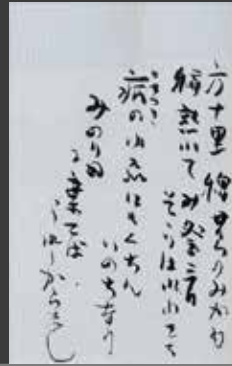
66

補遺＝玄米をめぐる三題

- <賢治の好み> いままで三年玄米食（七分搗き）をうちぢゅうやりました。母のさとから宣伝されたので、私はそれがじつにつらく何べんも下痢しましたが去年の秋までそれがいゝ加減の玄米食によることに気付きませんでした。気付いてももう寝てあて食物のことなかれこれ云へない仕儀です。最近盲腸炎（あらのため）を義弟がやったのでやっどやめて貰いました。〔№4 19, 昭和7年6月1日、森佐一宛下書き〕
- <四合の適切性>
- <「三合」への改竄問題> 太平洋戦争終戦直後の1947年（昭和22年）の文部省の**国定教科書**に、当作品が掲載されている。「日本の食糧事情から察沢と思われる」という理由からGHQの統制下にあった**民間信託教育局**（CIE）の係官は一度掲載を却下したものの、その後「**玄米四合**」を「玄米三合」に変更することを条件として許可したとされている。国定教科書は賢治の遺族の了解をもって、**石経延男**の編集によって三合に変更された。延男は賢治の作品を改ざんするのは忍びなかったが、係官は当時の食料事情を持ち出してきたことから、同意するに至った。〔ウィキペディア（Wikipedia）
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%A8%E3%83%A2%E3%83%9E%E3%82%B1%E3%82%BA%E7%9E%84%E7%B1%B3.E5.9B.9B.E5.90.88>〕

67

絶筆

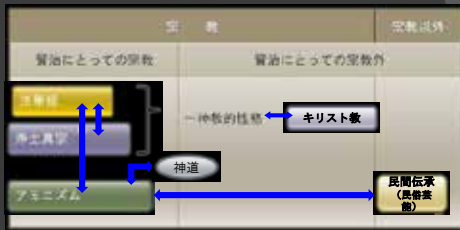


68

4/5 賢治と宗教 宮澤賢治の宗教意識

鎌月善次「宮澤賢治の宗教意識～短歌作品を有難素材として～」、P. A. ジョージ、小説と評論「宮澤賢治の深層～宗教からの照射～」(法蔵館、2012) pp. 243-268.

親和性



69

4/4 保阪嘉内書簡に見る妙法蓮華経(0-1) 赤い経巻①



70

4/4 保阪嘉内書簡に見る妙法蓮華経(0-2) 赤い経巻②



71



72

宮澤賢治の宗教意識 補足

- 賢治の根拠にあった考えは、アミニズムの考えであり、その非排斥性・許容性は、一時（父の浄土真宗との対立／保阪嘉内への国社会への勧誘等）を除き、基本的には生涯保たれていた。
 - 法華経（日蓮宗）は、当時の仏教中では、浄土真宗（賢治の家の宗教）と並んで一神教的側面を有していた。
 - 一仏専一＝浄土真宗（阿弥陀如来）、日蓮宗（釈迦如来） * 「天地創造」神話の欠落
 - 題目重視の点でも、妙法蓮華経・浄土真宗の両者は共通性を有していた。
- 浄土真宗（「南無阿弥陀仏」）、日蓮宗（「南無妙法蓮華」） * リズム＝南無阿弥陀仏（ナムアマダブツ＝7音）vs 南無妙法蓮華（ナムミョウ ホウレンゲキョウ＝4（5）・7音）

73

宮澤賢治の宗教意識 補足(文献)

正木晃「なぜ、宮澤賢治は浄土真宗から日蓮宗へ改宗したのか?」、P.A.ジョージ・小松和彦編『宮澤賢治の深層～宗教からの照射』（法蔵館、2012）
pp.220～242.

望月善次「宮澤賢治の宗教意識～短歌作品を考察素材として～」同pp.243～268.

74

5/5 賢治とキリスト教（1）

- 賢治のキリスト教への関心は、狭義の「宗教」ではなく「意匠」及び「（欧米文化への）憧れ」である。
- 妙法蓮華経（日蓮宗）という一神教的仏教を信じた賢治には、そうした面からもキリスト教への親和性はあった。

75

5/5 賢治とキリスト教（2）

- 場〔教会訪問、キリスト者*との親交（作品「銀河鉄道の夜」★讚美歌「主よみもとに」）
 - * タッピング牧師（1857～1942）★盛岡浸礼教会（1908＝明治41～1920＝大正9）
ブジャー神父（1969～1943）★盛岡天主教会（1902＝明治35～1922＝大正11）
 - ▲ ブジャー師や／さては浸礼教会の／タッピング氏に／絵など送らん〔280〕
 - * 斎藤宗次郎（内村鑑三門下、1977～1986）、照井真臣乳（まみち／1873～1949小学校5年担任。内村鑑三門下。子息の謙二郎1906～2002は、賢治の花巻農学校時代の教え子。）

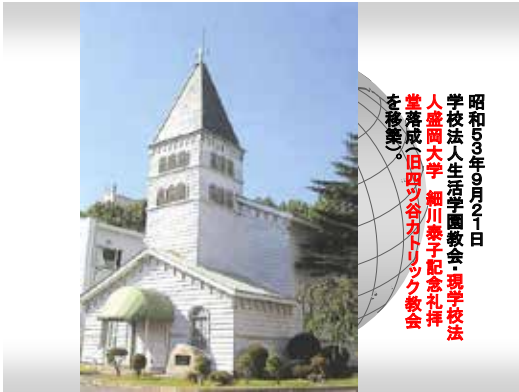
76

- 「タッピング牧師に関する作品」
『岩手公園』(文庫群 101)
- 「かなた」と古いタッピングは、杖をはるかにゆびさせと、東をはるかに散乱の、さびしき鐘は声もなし。
 - なみなす丘はぼうぼうと、青きりんこの色に暮れ、
 - 大学生のタッピングは、口笛軽く吹きにけり、
 - 老いたるミセスタッピング、
 - 「去年(しぞ)なが姉はこしにして、中学生の一組に、
 - 花のこをばを教へしか。」
 - 弧光燈(アークライト)にめぐるめき、
 - 羽虫の群のあつまりつ、
 - 川と銀行木のみどり、
 - まちはしづかにたそがる。

77

- 「ブジャー神父に関する作品」
『浮世絵』(文庫群 105)
- ましろなる 塔の地階に、
 - やるせなみブジャー神父は、
 - とりいでぬにせの赤富士。
 - 青瓊(み)玉かどやく天(そら)に、
 - れいろうの瞳をこらし、
 - これはこれ悪業(あく)乎(か) 栄光(えかえ)乎(か)
 - かぎますます北斎の雪
- * 原文は二行が一行で、各一行は中間に余白を置いている。

78



昭和53年9月21日
 学校法人生活学園教会・理学校法
 人盛岡大学 細川泰子記念礼拝
 堂落成（旧四ツ谷カトリック教会
 を移築）。

79

本日の纏め

＝宮澤賢治の生涯と作品の力

賢治の生涯は、世間的に言えば「成功」した生涯ではなかった。（「農民芸術概論綱要」の後の彼を待っていたのも手ひどい「挫折」であった。）

⇒ 「〔同心町のよあけがた〕」

文学的に言えば、その力量と比べても本日の「七つの挫折」を含む「不遇の生涯」であった。

しかし、彼の不遇の生涯、挫折の生涯の懸命さが、高い文学的結実と共に、私達の心を打つのである。

80

感謝

御清聴

ありがとうございました。

機会がありましたら、またどこかで宮澤賢治の名とともにお会いできるなら幸いです。

81

2013 年度（平成 25）年度

東北学院大学宗教活動報告

2013（平成 25）年度東北学院大学宗教活動報告

◇教員組織

宗教部長	佐々木哲夫
書記	野村 信
土樋 担当	佐藤司郎、原口尚彰、出村みや子
泉 担当	野村 信、村上みか
多賀城担当	原田浩司

大学オルガニスト	今井奈緒子
キリスト教文化研究所所長	出村みや子
総合人文学科長	北 博

◇大学礼拝

月～土曜日	10時25分～10時45分（土樋朝、泉、多賀城）
水曜日	19時35分～19時55分（土樋夜）
月曜日	19時30分～20時（泉女子寄宿舍）
火曜日	19時30分～20時（泉男子寄宿舍、旭ヶ岡寄宿舍）

年間総出席者数

	2013年度			2012年度			2011年度		
	総数	回数	平均	総数	回数	平均	総数	回数	平均
土樋・朝	13,162	181	73	26,593	181	147	23,034	168	137
泉	53,489	181	296	61,049	181	337	57,805	168	344
多賀城	31,548	181	174	40,629	181	224	39,463	166	238
土樋・夜	1,321	34	39	1,528	31	49	1,484	28	53
総計	99,520	577	172	129,799	574	226	121,786	530	230

〔備考〕・春季・秋季特別伝道礼拝、大学クリスマス礼拝を含む。

・平均値の小数点は四捨五入。

大学礼拝

総回数 663回〔3キャンパス（577回）・寄宿舍（86回）〕
外部（牧師） 309回

学内	361回
学内内訳	
理事長、大学長、キリスト者教員など	69回
宗教部関係者	295回
宗教部関係者内訳	
宗教部長	31回
野村信大学宗教主任	29回
佐藤司郎大学宗教主任	30回
出村みや子大学宗教主任	29回
村上みか大学宗教主任	29回
原田浩司大学宗教主任	30回
北博総合人文学科長	30回
佐々木勝彦先生（総合人文学科）	28回
マーチーデイビッド先生（総合人文学科）	30回
今井奈緒子大学オルガニスト	4回

◇春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

日 時 2013年5月8日（水）10時25分～11時20分 泉（参加者1,253名）
5月9日（木）10時25分～11時20分 土樋朝（参加者489名）

説教者 林牧人牧師（日本基督教団西新井教会）

聖書箇所 新約聖書 マルコによる福音書第5章21節～43節

説教題 「主イエスの御衣に触れよう！」

日 時 2013年5月9日（木）10時25分～11時20分 多賀城（参加者637名）
5月9日（木）19時35分～20時30分 土樋夜（参加者85名）

説教者 藤野雄大伝道師（日本基督教団西千葉教会）

聖書箇所 旧約聖書 エレミヤ書第30章12節～17節

説教題 「私が傷をいやす」

◇秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝

日 時 2013年10月8日（火）10時25分～11時20分 泉（参加者411名）
10月9日（水）10時25分～11時20分 土樋朝（参加者201名）

説教者 まつい ただし 松居 直先生（福音館書店相談役）

聖書箇所 新約聖書 ヨハネによる福音書第1章1節～5節

説教題 「はじめに言葉があった」

日 時 2013年10月9日（水）10時25分～11時20分 多賀城（参加者349名）
10月9日（水）19時35分～20時30分 土樋夜（参加者42名）

説教者 中村順子先生（日本女子大学非常勤講師）
聖書箇所 新約聖書 マルコによる福音書第4章8節
説教題 「子どもの本の世界」

◇第25回泉キャンパスクリスマス

日時 2013年12月6日（金）18時30分
場所 泉キャンパス礼拝堂
説教者 関川祐一郎牧師（石巻山城町教会）

◇大学クリスマス

日時・場所 12月19日（木）10時25分 泉キャンパス礼拝堂（参加者458名）
12月19日（木）16時30分 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂（参加者157名）
12月20日（金）10時25分 多賀城キャンパス礼拝堂（参加者404名）
説教者 長倉勉牧師（日本基督教団伊豆長岡教会）
説教題 『何を信じて生きるか―人生、一寸先は…―』（3キャンパス）
聖書 新約聖書 マタイによる福音書第2章1節～12節
合唱 ヘンデル「メサイア」より抜粋
指揮 岡崎光治（作曲家）
オルガン 今井奈緒子 教養学部教授（大学オルガニスト）
独唱者 熊木晟二（声楽家・バス）
鈴木美紀子（声楽家・ソプラノ）
合唱団 学生有志

◇第18回スプリング・カレッジ

日時 2013年4月13日（土）14時30分～18時
場所 泉キャンパス礼拝堂（1階）小礼拝堂、2号館2階228番教室
内容 キリスト者等推薦入学生へのガイダンス
開会礼拝 宗教部長
挨拶 宗教部長
キリスト者等推薦学生の心得・義務の説明
1）年間宗教行事への参加について
2）大学礼拝への出席について
3）聖書研究会か聖歌隊のいずれかへの加入について
4）出席教会の確定と報告について
5）その他（カルト団体に関する注意など）
参加人数 学生23名
教職員10名（宗教部長、北博、野村、村上、出村、原田、マーチー、羽賀、

高橋幸子、菅野)

◇第 39 回サマー・カレッジ

日 時 2013 年 8 月 5 日 (月) ～ 8 月 7 日 (水)

場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル

主 題 「人物を通して見るキリスト教—宮澤賢治について学ぶ—」

講 師 望月善次先生 (岩手大学名誉教授、前盛岡大学学長)

野村信大学宗教主任

参加人数 学生 19 名 教職員 8 名 (宗教部長、野村、北、出村、原田、羽賀、高橋幸子、菅野)

◇第 58 回教職員修養会

日 時 2013 年 9 月 3 日 (火) ～ 9 月 4 日 (水)

場 所 宮城蔵王ロイヤルホテル

主 題 「聖書に聴く」

講 師 山北宣久先生 (青山学院院長)

講 演 『神の言葉として受け入れる』

懇 談 グループ懇談 (講師講演をめぐって)

全体懇談 「押川方義とはなにもものだったのか—『図録押川方義とその時代』刊行によせて」

河西晃祐文学部教授

参加人数 教育職員 65 名、事務職員 57 名

◇キリスト者等推薦入学生との懇談会

日 時 2013 年 7 月 9 日 (火) 泉キャンパス 参加人数 学生 20 名、教職員 6 名

2013 年 12 月 10 日 (火) 泉キャンパス 参加人数 学生 16 名、教職員 6 名

◇礼拝奉仕者懇談会 (事務職員)

土 樋キャンパス 2013 年 6 月 10 日 (月) 14 時 ～ 14 時 20 分

参加者 松本学長、宗教部長、齋藤副学長、他 21 名

多賀城キャンパス 2013 年 6 月 12 日 (水) 11 時 ～ 11 時 20 分

参加者 松本学長、宗教部長、伊達工学部長、他 18 名

泉 キャンパス 2013 年 6 月 13 日 (木) 11 時 ～ 11 時 20 分

参加者 松本学長、宗教部長、他 15 名

◇礼拝オルガニスト懇談会

日 時 2014 年 2 月 24 日 (月) 11 時 ～ 13 時

場 所 8 号館第一会議室

参加人数 23 名 (礼拝オルガニスト他)

◇礼拝司会者（牧師・宣教師）懇談会

日 時 2014年2月24日（月）18時～20時
場 所 仙台国際ホテル
参加人数 37名（牧師・宣教師他）

◇宗教部会

開 催 日 2013年4月11日（木）、5月16日（木）、6月13日（木）
7月18日（木）、10月10日（木）、11月21日（木）
2014年1月17日（金）、2月24日（月）計8回

◇大学宗教主任会

開 催 日 2013年4月11日（木）、5月16日（木）、6月13日（木）
10月10日（木）
2014年1月17日（金）、1月30日（木）計6回

◇事務打合せ

日 時 2013年11月19日（火）15時～17時
議 題 「2013年度補正予算及び2014年度予算案について」
場 所 泉キャンパス礼拝堂会議室
参 加 者 宗教部長、大学宗教主任、各キャンパス事務担当者

◇宗教部自己点検評価委員会

1回

日 時 2013年10月10日（木）持ち回り審議
主 題 「2013年度（前期）宗教活動について」
「2013年度（後期）宗教活動予定について」

2回

日 時 2014年2月27日（木）14時30分～16時10分
主 題 「2013年度東北学院大学宗教活動報告について」
「2014年度東北学院大学宗教活動予定について」

◇第36回青山学院大学合同チャプレン会議（仙台会場）

日 時 2013年9月15日（日）、16日（月）
場 所 東北学院大学 土樋キャンパス8号館第1会議室
主 題 「キリスト教学校の今日の課題」
発 題 者 発題Ⅰ原田浩司先生（東北学院大学）、発題Ⅱ福嶋裕子先生（青山学院大学）
参加人数 11名（宗教部長、野村、佐藤、北、原口、出村、村上、原田、齋藤信二、羽賀、菅野）

◇宗教部研修会

日 時 2013年7月18日(木) 15時～19時30分
場 所 仙台国際ホテル
発 題 I 『学生卒業時意識調査をめぐって』
II 『卒業生(十五日会)の礼拝意識調査について』
発 題 者 発題I 野村信大学宗教主任
発題II 宗教部長
参加人数 9名

◇第18回キリスト者教員研修会

日 時 2014年1月23日(木) 15時～19時30分
場 所 仙台国際ホテル
主 題 「大学礼拝説教に期待するもの」
発 題 者 松本学長
参加人数 教育職員15名、事務職員4名

◇宗教委員会(予定)

日 時 2014年3月10日(月) 全学教授会終了後
場 所 土樋キャンパス 8号館第1会議室

◇学長招待卒業生懇談会

日 時 2014年3月10日(月) 12時～13時
場 所 土樋キャンパス 本館会議室
出 席 者 松本学長、宗教部長、宗教事務課職員
卒業生参加予定者 10名

◇聖書研究会

土 樋キャンパス	北 博	総合人文学科長	「午後の宗教音楽」
	佐藤 司郎	大学宗教主任	「聖書を読む」
	出村みや子	大学宗教主任	「アウグスティヌスの知恵に学ぶ」
	村上 みか	大学宗教主任	「ドイツ語聖書を読む」
	”	”	「ルカによる福音書を読む」
	原口 尚彰	大学宗教主任	「ローマ書を読む」
	松村 尚彦	キリスト者教員	「聖書を読む」
泉 キャンパス	佐々木哲夫	宗教部部長	「聖書から学ぶ」
	野村 信	大学宗教主任	「創世記を読む」
	原田 浩司	大学宗教主任	「キリスト教の信仰の基礎」

多賀城キャンパス：長島慎二 キリスト者教員 「聖書日課を読む」

◇『チャペル・ニュース』

124号「新入生歓迎号」、125号「春季特別伝道礼拝特集号」

126号「サマー・カレッジ、秋季特別伝道礼拝特集号」、127号「クリスマス特集号」

◇『2013キリスト教活動のハンドブック』

2013年4月1日発行

◇『礼拝説教集』

第18号（2014年3月末日発行）

◇『宗教活動報告書』

第14号（2013年7月30日発行）

◇その他

礼拝堂管理、図書資料受入、調査回答

◇卒業記念礼拝

日 時 2014年3月25日（火）

説教者 宗教部長

説教題 「地の塩、世の光」

東北学院大学教職員修養会 キリスト者教員研修会報告書

第 15 号 2014 年 8 月 30 日発行

発行責任者 宗 教 部 長 佐々木哲夫

編集責任者 宗 教 部 長 佐々木哲夫

出 版 社 株式会社アクトジャパン

問い合わせ先 東北学院大学宗教事務課

〒 980-8511 仙台市青葉区土樋 1 の 3 の 1

電話 022 - 264 - 6428